

日時 : 2012年1月18日 水曜日 13:30~17:30  
場所 : 山田記念室  
出席 : M1 曾根田 田口 細金 加藤(書記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : M2 大塚 上村 佐長

---

## ゼミ内容

B4 卒業設計発表

---

## 卒業設計発表

---

### ■倉地 / 「Re:Agriecture ~ガチで農の連続性を伝える渋谷センター街再編計画~

~Shibuya center street agricultural continuity project for informing young generation absolutely~

- ・ 農の連続性を伝えるため農業研修施設と若者が求める店舗をセンター街路上に提案します。
  - ・ 街路を通過しながら外農業の機能が視認できるように外部一機能一外部一機能ではさみ込むように点在させる。
  - ・ 平面図、断面図終了・模型へ。土台・周辺・添景あり。梗概作成へ。前半4枚パネル終了。
- > マスタープランになっていない。この図面で伝えることは何か？ビフォーで示した問題点はどうか解消されるのか？
- > 市松案は、緑の薄い屋根がフワツとかかかっていて、センター街に来る人たちがなんだろう？と目にとめる感じがあった。屋根にも十分に穴が開いていた。原案はただのうっとおしいアーケードではない。

### ■矢板 / 「裏ナカメ地縁再生計画 ~かつての目黒川の役割を担うファッション・ラーニング・センター~

Uranakame regional bond reactivation project-fashion learning center as an urban role of former Meguro river

- ・ かつての目黒川の役割をもつ場所として川の流れては無く緑の流れによって地域と住民を繋ぐ。
  - ・ 住民の動線の中に地域交流の場を共存させることによって日常の延長に地域との関わりがある場所を提案する。
  - ・ 本模型へ。土台・周辺・添景あり。手伝いが5人。添景を残して図面終了。梗概作成へ。梗概未着手。前半4枚パネル終了。
- > 「緑の流れによって地域と住民を繋ぐ」のは良いが、それが具体的にどういう意味かは分からない。全体計画は良いが、モデルはどれも良く分からない。このモデルは必要か？エリアのはずれにある敷地に「緑の流れ」を作ったら、なぜそれは「目黒川」のような存在になるのだろうか？

### ■増井 / 「残心を用いた建築 ~空間認識を揺さぶる渋谷現代美術館~

Architecture using Zanshin(unrelaxed alertness)

~Shibuya museum of contemporary art without interruption of spatial perception ~

- ・ 残心の特徴でもある、「一見不安定に見えるが、構造として成り立っている」という状態、美術館のプログラム構成、建築の建ち方、配置に応用して考えた。
  - ・ 一繋がり視覚的な連続性ではなく、様々な関係性によりつくる連続性で人の意識を揺さぶり、意識が途切れない美術館を提案する。
  - ・ 添景を残して平面図終了。断面図未完。模型へ。土台・周辺・添景あり。梗概未着手。前半4枚パネル終了。
- > 残心的なプログラムはいいが、これだけではそんなに画期的な提案とは言えない。これは建築内部の話だけである。敷地周辺との関係、建築とランドスケープの関係も残心的であるべき。現在のプランは、敷地の真ん中にボツンと置かれている、ごく普通の美術館建築に見える。模型写真のような感じを全てに拡げること。伊東さんのパークレーの美術館を知っているか？あれは残心的かもしれない。

### ■金子 / 「透明の中の見えない場 ~虚の不透明性を用いた青山現在美術館~

invisible place in transparency~ Aoyama museum of present art using phenomenal opaqueness~

- ・ 敷地をキャットストリートと明治通りの間にする。
  - ・ ガラスの壁を折り曲げることで屈折反射を繰り返し透明な感覚に近づける。
  - ・ 平面図・断面図共に未完。梗概未着手。土台・周辺・添景あり。前半4枚パネル終了。
- > キャットストリートには美術館はできない。搬入搬出を考える。
- > 模型が大きすぎる。
- > 頭を切り換えて、パネルを間に合わせることを目標にする。

■増田 / 「都市の礎 ～現代の里山による南山地区再編計画～」

keystone of the town -Minamiyama reorganization project by contemporary village mountain-

- ・ 地域全体に絡み付き、また都市と建築の中間のような存在にすることを指す。
  - ・ 人々が通り抜けることができるふわっとした建築とする。
  - ・ 模型写真と図面レイアウトでほぼ完成。図面：外形・ゾーニング完成、平面6割、断面4割。図面完成予定は金曜日深夜。模型：土台・周辺完成。本体外形が4割ほど。内部は設計待ち。模型完成予定は土曜日夜。梗概：章立てのみ。
- > 小学校をもっと分解して考える。幼稚園+小学校+（中学校）。
- 小学校を2つか3つに割っても良い。全部一体で考えようとするとう無理がおこる。
- 小学校と地域を分けしないで、混ぜ合わせる。1階は全てオープンでも良いのでは？

■池田 / 「空な建築 ～京島の余白をつなぐ小さな祭礼場～」

architecture of blank -Kyojima ceremonial space network connecting with small urban voids-

- ・ マスタープランでは建築とランドスケープのエリアをつくり、塔と門の中間のような建築を空にのぼし、視線で繋げていく。
  - ・ 門の厚みや細さを変えていくことで、建築とランドスケープの両方を作る。
  - ・ 模型写真と図面レイアウトでほぼ完成。ダイアグラム残り少し。図面ほぼ完成。添景書き込み模型：土台・周辺は完成。本体2割ほど。模型完成予定は土曜夕方。梗概：前半終了。後半章立てのみ。
- > マスタープランの「提案部分」はコンセプトと矛盾するのでは？京島全体が提案部分だろう？高さが少しありすぎる

■熊谷 / 「三ノ輪下町がくどう商店街 ～みんなのきずなが息づく居場所～」

Minowa after-school activity downtown street -place of relations for everyone-

- ・ 居場所となる、空き店舗を解体した跡と路地を道で囲い、とどまれる場所をつくりだします。
  - ・ その道をすこし盛り上げ、ゾーンを囲うことで、がくどう商店街の領域を認識しやすくします。
  - ・ ある場所の道は、高さや幅を与え建築化し、こどもたちの遊び場を囲い、自然と見守ることができるようにします。
  - ・ 模型写真と図面レイアウトでほぼ完成。速度が遅い。図面ほぼ完成。添景書き込み中。模型：土台・周辺完成。本体1割ほど。模型完成は土曜日夜。梗概前半終了。
- > 模型写真がいいので、大きく扱った方がいい。写真に文字や吹き出しを入れても良い。
- 商店街と敷地を連続させてデザイン。提案部分と普通の商店街との連続性も考慮。
- 子供の目線と大人の目線、両方で考える。

■古水 / 「音紡奏景 ～吉祥寺マチナカ音楽ストリート～」

urban musical performance scene -Kichijoji friendly musical sound street-

- ・ ライブハウスの壁は無口の情報板であり、間接的なコミュニケーションが生まれるものであると考え、その壁をインフォメーションウォールとしてそのままランドスケープに利用する。
  - ・ 模型が間に合うはず。パネル4枚目までほぼ完成、後半パネルは図面、添景を入れるだけ。図面金曜日終了。夜中から本模型制作へ。周辺・土台作成済み
- > 断面図の上2/3は不要。木の高さぐらいまでで十分。生活像が見えるように大きく。図面も無駄な部分をカット。
- 壁はもっとあってもいい。但し、密度にメリハリをつけること。ストリートと合体させてデザインすること

■川福 / 「海を取り戻すきっかけ ～大磯コンパクトタウン化計画～」

beginning for getting back the sea -Oiso town compactize project-

- ・ 大磯町における海を感じるモノとして何が在るのか、どういった行動が必要なのかについて考えました。海を感じるためには、高いところに登る、海風を感じる、砂浜を踏みしめる、灯台が在る、ということに行き着きました。そこで、駅前のに灯台をつくり、日常的に海を感じられる拠点として、町民と観光客にとっては大磯町のシンボルとして機能させる。
  - ・ 手伝いがいない。パネル4枚目までほぼ完成、後半四枚の平面図、断面図は添景、文章が足りない。本模型作成へ。周辺模型、土台作成済み。
- > 丁寧にやりすぎなのかもしれない。もっとスピードのあるスケッチを描く。
- 箱を並べて考えていると止まってしまうから、ざっくりとした領域をスケッチで描き、模型で確認していくこと。
- 丘が曲線なので、大きな薄い曲線の屋根で領域を作る感じかもしれない。ロータリーとの領域の連続性がポイント。
- > 模型が厳しい。

■柴 / 「雁行空間 ～神楽坂花街の記憶を継承するまちかどメディアテーク～」

zigzag space -Kagurazaka sustainable mediathèque with urban memories of geisha quarter-

- ・ かつての路地体験を修復する。1937年の路地構造を基盤に奥を感じさせ神楽坂の記憶を知るメディアテークを創る。

お手伝いがいない。4 枚目まで埋まっているが修正が必要。図面は現在 1 枚目。

- > これでは路地をふっかつさせたことにならない。かつての路地を復活させるために雁行体験を含んだ建築を都市に埋め込んでいく。

■本間 / 「脱要塞居住 ～共助を学ぶ目白高田 Silver x Student Housing～」

de-fortified living-Mejiro Takada silver x student housing for learning」

- ・ 脱要塞居住とは、外に対して閉じていた集合住宅をただ開いた形にしたものではなく、そこで暮らす人がお互いに助け合うことや人と付き合うことができる住まいである。
- ・ 4 枚目まで埋まっているが修正が必要。設計未完。金曜中に完成目標。周辺・土台終了。本模型へ。手伝いはいる。
- > 「居住」とは何だろう？  
新しい生活像を示すのが目的。そのためのレイアウトやプレゼンテーションを考える。  
断面図の背後のピンクは不要。図面は白地が基本。

■内田 / 「書籍の墓場 ～神保町古書店街の軌跡を残す都市の溝～」

cemetery for the analogue books -urban trench with bonds of Jimbo-cho secondhand bookstores-」

- ・ 現在の古書店街の路地に溢れ出た古書店の個性（本棚）を都市の溝に埋め込む。
- ・ 本棚を module とし、都市の中で建築化させる。
- ・ GL レベルは浮かせ、現在の人の流れを変えない。
- ・ 時代の変化によって建物の高層化、街の均質化が進むのと反比例して成長し、より豊かになるような書籍の墓場。
- ・ 4 枚目まで埋まっているがかなり修正が必要。図面はも密度を上げる作業へ。模型は明日中に完成予定。パネル修正、ダイアグラム作成などがかなり残る。
- > 断面図がひどい。まるでリアリティーを感じない。なぜ周辺のビルに揃えるのか？隣のビルが建て替えたら意味ないのでは？このデザインでは、そもそものコンセプトに矛盾している。
- > 頭を切り換えて、パネルを間に合わせることを目標にする。

■増澤 / 「みずねっと ～水系を辿って蘇る諏訪の記憶～」

MIZUNET(aqua network) -reviving urban memories of Suwa by former river system-」

- ・ 水系と路地の編み込まれた関係を抽出し、今でも水の些細な変化や物に気付かされる路地空間のような体験を、shop、cafe、hall に埋め込む事で住民が集い交流するための親水空間。また水位の変化と共に空間の使い方、水との距離も変わる。
- ・ 背割りを流れる些細な水の流れは導かれる様に建築空間に引き込まれていく。些細であった水の流、音、溜、濡、は空間の中で大きな変化となり、様々な水との関わりや感じ方によって住民との繋がりを取り戻す。
- ・ 模型は完成しそう。後半パネルの密度が苦しい。3 枚目ほぼ完成。4 枚目以降は文章、絵が足りない。夕方から本模型作成へ。(本体・周辺模型・土台ともに作成途中。
- > 5 枚目以降の平面図はサイトプランと向きと位置を合わせる。これではどこがどこか分からない。

□総評

- ・ 設計図面の内容についてコメントできた人は 2 名。スタディー模型もろくになく、最終的にどんなものが出来るのかを確認できた人はいない。去年も 11 人中半数は同様の状態だったが、カタチはあったし、どんな卒制かも分かっていた。それでも半数間に合わなかった。設計しようとしらない人が多すぎる。4 人前後（増田、池田、古水、本間）はなんとか格好がつくだらうが、ほとんどの人は間に合わない。
- ・ 倉地・金子・内田・増澤・柴の順で相当厳しい。頭を切り換えて、パネルを間に合わせることを目標にする。川福・矢板は模型が厳しい。
- ・ 提出まであと 3 日。週末は雨か雪。撮影は出来ない。

□次回ゼミ

- ・ 2012 年 1 月 25 日 15:10～17:30 山田記念室

## 吉松研究室 第27回議事録

日時 : 2011年11月23日 水曜日 15:30~20:30  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 曾根田 田口 細金 (記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

B4 卒業設計中間発表

### 卒業設計中間発表

#### ■増田 /

- ・ 現代生活における「里山」を建築（地区計画）で作り出すプロジェクト。
- > 2つのマスタープランを合体し、広域マスタープランを描き、里山のカタチを考える。みんなに愛される魅力的な場所は、白いフラットルーフの塊でいいのかだろうか。

#### ■川福 /

- ・ 大磯の街に海を取り戻すプロジェクト。
- > 西湘バイパスを消し去るのではなく、小さな操作で街の構成を変化させる。駅前と丘を連続させて街の核を作り、大磯の地形を取り戻し、海を感じさせる仕掛けを考える。防災はディフェンス。

#### ■熊谷 /

- ・ 街の商店街を学童保育を軸とした複合プログラムで再編するプロジェクト。
- > 子供だけでなく親のためでもあり、街の人のためでもある。小学校のプログラムとも混ぜられる。MSD案の下町都心版。都市のなかに様々な世代の人たちの「居場所」を作る。

#### ■池田 /

- ・ 近未来社会における葬祭場の在り方を考えるプロジェクト。
- > 「死」との日常的なつき合い方を示す。葬祭場の形式を学び、どんな提案がされているか勉強する。その上で敷地とプログラムを決定し、「空な建築」を代入する意義を探る。何が空なのか？基礎造形だけではダメ。

#### ■古水 /

- ・ 吉祥寺の生活と音楽をつなぐプロジェクト。
- > サーベイから提案へつなぐマスタープラン、既存の動線と重なる音楽の動線を画く。街に隠れるのではなく街に開くが、迷惑はかけない。どうすればこの矛盾は解消できるかを考える。FRMZらしいアイデア。

#### ■倉地 /

- ・ 農の連続性を生むために渋谷センター街を再編するプロジェクト。
- > 機能を保持したままストリートの都市的な位置づけを変え、農の連続性を与え続ける提案を考える。FJT案の方がまだ勝っている。

#### ■増澤 /

- ・ 諏訪の街に水の記憶を取り戻すプロジェクト。
- > 諏訪の歴史を知っても分析が出来ない。問題を発見し、それらを解消するアイデアを複数考え、マスタープランを画く。車社会だから交通計画は重要。まず、水の記憶を取り戻すにはどうすれば良いか考える。

#### ■矢板 /

- > 何が目的のプロジェクトを明確にする。今までの中目黒の分析を全て統合しゴールイメージを決める。中目黒の商業的発展が目的か、問題点は何か、誰のための誰の計画か、プログラムはマスタープランとどう関係するのか、ストーリーの主語述語目的語を常に考える。

#### ■柴 /

- > 神楽坂の「空間的」魅力を強化するプロジェクト。神楽坂の歴史を分析し、何が変わって何が変わっていないのか、取り戻すべきものは何かを考える。保存修復や保存復元では設計提案にはならない。かつての記憶や空間構造を保持したまま、現代と融合できる仕組みを考える。

#### ■金子 /

- > 虚の不透明性を自分で分かる言葉に置き換える。透明な建築で不透明を感じさせるにはどうすれば良いか？透明な美術館を作るのは、どんな場所でどんな内容のどんな構成の施設にすれば良いか？前期の最初から見直し、ストーリーを一歩ずつ確認して前に進む。そんなに大きな提案である必要がないのでは？

■内田 /

- > 今、あえてアナログの本の為の施設を作る必然性は何か？本の墓場が本の捨て場では意味がない。本の尊厳性を再認識する、本の魅力を伝える場であるべきでは？それはどんなプログラムでどこにあればいいのか？墓場でない「墓場」を考える。

■増井 /

- > 最もこだわりのない。「残心」を建築化するために最も相応しいプログラムと場所を考える。まず、残心的であると思う既存建築を示し順番を決める。そうすれば自分の判断基準が見えてくるはず。前期の最初から見直し、ストーリーを再編。

■本間 /

- > 集合住宅の勉強をしても、内容が理解できていない。今まで建築家によって提案された様々な仕組みを理解し、その上で「ゆるさ」を考える。既存の建築における「ゆるさ」とHNMの「ゆるさ」はどこがどう違うのかを図示する。都市に「ゆるく」はめ込んだような集合住宅を提案する方が良いのでは？

□総評

- ・ 図面を描いただけという人が多かった。1週間であれだけ出来る能力があるなら、この「手で考える」ペースで設計を「積み上げる」こと。思いつきをカタチにすることを何度繰り返しても「建築」にはならない。

## 吉松研究室 第25回議事録

日時 : 2011年10月13日 水曜日 11:30~17:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 上村 佐長 大塚  
: M1 加藤 細金 曾根田 田口(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 倉地 柴 古水 増井 増田 増澤 本間 熊谷 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

□ B4 中間発表予行練習

### □デザインリサーチ発表

#### ■矢板 / 「中目黒縫合帯~Fashion museum による地域再編計画~」

- ・若手デザイナーが集まるファッションの街という個性を継承するために、デザイナーのクリエイションを市場にアウトプットする衣服のミュージアムを提案する。中目黒はファッションの街としての個性を継承していく。
- > 現ストーリーで設計してみて、川と路地を含む部分模型を作成。

#### ■増田 / 「都市の礎~南山地区の小学校化による地域再編~」

- ・地域に拡散し広がりをもつ小学校を造る事で、現在崩壊している近隣住区を構築し、無秩序な南山地区に意識的な求心性を生む。また既存街路のもつ多様性と既存農家を学習環境の一部として活かす。
- > 小学校の設計を再検討し、マスタープランを作り、周辺を含めた部分模型を作成。

#### ■川福 / 「多重屋根のまちなか拠点~大磯地産継承プロムナード~」

- ・「組」のような関係を大磯町のプログラムと交互作用することで、海とのつながりを意識できるプロムナード施設を目指す。
- > 多重屋根とプロムナードの関係をマスタープランで示す。多重屋根の集合イメージをいくつか作成か。

#### ■池田 / 「空な建築~自然のうつろひを感じる青山無宗教キョウカイ~」

- ・生活の中心となる、無宗教のキョウカイを提案する。『空な空間』を用いることで、都市の僅かな自然の音・匂いを感じる場となり、普段は精神を落ち着ける都市の休息所として利用される。
- > ストーリーを大学生レベルで理解する。「自然のうつろひ」または「無宗教キョウカイ」の空間イメージを複数示す。

#### ■倉地 / 「Re:Agriecture~農の連続性を生む Kasugacho Agri-Museum~」

- ・練馬区春日町は、点在する農地の軸と教育機関が点在している。軸に直交するように通学路が抜ける。農地の軸を利用した点在する Agri-Museum を提案する。
- > 農の連続性を説明する模型をいくつか作成。

#### ■金子 / 「透明の中の見えない場~虚の不透明性を用いた現在美術館~」

- ・虚の不透明性を用いることで、隔絶した美術館と展示室の関係は連続した空間となる。また、空間を多様に認識できることによりアートのは広がりが、人々はアートを自ら見つけることができる現在美術館を提案する。
- > 「虚の不透明性」を説明する模型とそれが都市の中にどのように置かれれば良いかのスタディー模型を複数。

#### ■内田 / 「知の樹~神保町の軌跡を残す書籍の墓場~」

- ・神保町に行き場を失った本のための墓場を提案する。本の墓場は姿を変えてしまう神保町での本や人との出会いの軌跡として存在し続ける。
- > ストーリーを整理。「書籍の墓場」の説明と神保町の分析が不十分。書籍の墓場の模型をいくつか作る。

#### ■増井 / 「記憶の継承~残心による繋がりを用いた鶴巻温泉メディアテーク~」

- ・歴史を体験する施設をつくり、市史資料館、市民ギャラリーなどを複合したメディアテークとする。高層マンション建設により失われる歴史を取り戻すだけでなく、市民に日常的に利用される場となる。
- 現ストーリーで設計してみて、源泉の塔を複数含む部分模型を作成。

#### ■熊谷 / 「きずな息づく居場所~子どもに発見させる三軒茶屋学童保育~」

- ・学童保育は建物の中の一室という場合が多く、遊びを通して自分で居場所を発見する重要性を欠いている。空間を仕切らずに個人空間を持つことができる「居場所」をつくり、何に使うか自ら創造する空間をつくる。
- > 「居場所」の説明と学童保育の関係。前期の模型の発展+三軒茶屋の部分イメージ。

■柴 / 「神楽坂の花街風情を継承する芸術苑～」

- ・ 神楽坂は周辺の現代化を受け入れつつ、花街のまちなみを保持していくことが重要であると感じた。そこで、裏雁行を用いて花街路地の拡張と観光拠点の形成を提案する。
- > 神楽坂の分析図を明確にし、コンセプト模型で表現。そこからゴールイメージを作る。

■本間 / 「都市のゆるさ～世代をつなげる月島路地再編計画～」

- ・ 親密な人付き合いが残っているが、新しく移り住むことができない月島の路地空間を再編する。集合住宅をつくることで、従来の再開発によるマンションのような独立感をなくし、より親しみがもてるものとする。
- > 月島の分析を明確に示し、ストーリーが目に見えるようにする。ゴールイメージがないなら、月島の路地空間のモデルを作成。

■増澤 / 「いづく場～諏訪湖の記憶に刻まれる回帰景観～」

- ・ 徐々に刻まれていく内景観は、新しい景観を生むと共に薄れてしまった「水」への意識を呼び起こす。地域全体を眺望できる外景観は、人々の心に記憶として刻まれていく。その中で、人々の交流や流れが一つの景観・繋がりとなり、空間から地域全体の広がりが「内と外」にとらわれない温浴施設となる。
- > ストーリーを整理。諏訪の将来イメージを模型で示すしかないか。諏訪らしい曖昧な空間イメージを示せるか。

■古水 / 「ROCKの橋渡し～キチジョウジカルチャーを発信するマチナカロック学校～」

- ・ 現在吉祥寺にはカルチャーセンターや芸術施設が点在している。街の中に生きる文化とロックが融合する事によって吉祥寺にしかない、吉祥寺らしい文化というものが築けるのではないか。街の人たちの作るキチジョウジカルチャーを発信するマチナカの学校を提案する。
- > 吉祥寺の分析図を分かりやすくし、コンセプト模型で表現。ロック学校のイメージが作れるならなお良い。

□総評

- ・ 発表は1スライドで10秒から15秒を目安。
- ・ できるだけ文章を見ずに発表する。
- ・ スライドは見ただけで内容が分かるように。

□次回ゼミ

- ・ 2011年11月23日 16:50～(予定) 山田記念室
- ・ 卒業設計ゼミ中間発表

## 吉松研究室 第25回議事録

日時 : 2011年10月5日 水曜日 11:30~17:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 上村 佐長 大塚  
: M1 加藤 細金 曾根田 田口(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 倉地 柴 古水 増井 増田 増澤 本間 熊谷 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

□ B4 卒業設計テーマ発表

### □ デザインリサーチ発表

#### ■ 矢板 / 「流転する空間～都市軸としての中目黒ミュージアムロード～」

- ・ 中目黒に新しい軸をつくる。中目黒の路地の移り変わりを体感するとともに商業支援を出来る施設を提案した。
- > 提案が独りよがりである。こだわりはどこにあるのだろうか。何が流転するのか？3つの「軸」とはどのことか。

#### ■ 増田 / 「都市の礎 -南山の記憶を継承する小学校-」

- ・ 里山が担っていた生産・資源調達の機能を建築で担い、記憶を残す。地域固有の場で創造・知識・経験を積む場所にする事で、地域と利用者の間に絆を生む。また新たにニュータウンに来る人が地域の歴史を引き継いでいく為の礎となる場を提案した。
- > サーベイ図面とマスタープランで描き、コンセプト模型を作ってみる。開発の事例をいくつか準備する。

#### ■ 川福 / 「多重屋根のまちなか拠点 -大磯地産継承プロムナード-」

- ・ 大磯町を拠点として働きたい新規居住者のために、「組」のシステムを用いた SOHO 施設を提案する。海への遊歩道を確立することで衰退した漁師町に活気生まれ自立性のある文化拠点を生む提案。
- > プロムナードを作るとなぜいいの？地区計画としてはありえる。多重屋根のプロムナード+集合住宅の提案はあるが卒業設計としては地味。

#### ■ 池田 / 「都市瞑想体 -空な空間を用いた渋谷現代キョウカイ-」

- ・ ストレス社会に対して都市の休息場としてのかつて都市の中心として存在していたキョウカイのような建築を提案する。
- > 「茶室」を大きくしたものを作るのか。手法と目的が矛盾しないか。独りよがりである。「空な建築」で、機能のない空間を渋谷のど真ん中に作ることに、どんな意味があるのか？それは誰がどんな目的で作り、誰がどんな風に使うのか。ただの公園か。

#### ■ 倉地 / 「Re:Agriecture 多方向シークエンスを用いた和泉本町農業復興計画」

- ・ 農業の実践的な技術を提供できる体験型の博物館を提案。敷地は和泉本町。マスタープランを描いてきた。
- > 農業復興計画では卒業設計としては弱い。ストーリーを整理しすること。短い文章と画を描く。育てる博物館は良いが、多方向シークエンスは関係性が弱い。

#### ■ 金子 / 「透明の中の見えない場 虚の不透明性を用いた美術館」

- ・ 視覚的・感覚的に透明と感じるが、身体的な「体験」をすること展示空間も自らが空間を感じる・見つけることができ、身体的な「体験」ができる多様な空間のある美術館を提案する。
- > 問題意識は良いが、何を書いているのか伝わらない。これをより分かりやすく説明する。説明できないのなら模型を作ること。

#### ■ 内田 / 「知の樹～霞境界を用いた情報蓄積体～」

- ・ 現在の図書館の公共の中の個をという特異な空間を区役所の中に挿入する。霞境界を用いて、図書館と区役所が曖昧につながることで、情報の一極化と共に、人々の出会いの場、地域住民の祝典の場にもなる新たな図書空間を提案する。
- > これではごく普通の現在の図書館課題。ただ「霞境界」をしたいだけだし、それも先輩たちの提案と変わらない。文章で考えられないなら、画や模型を作る。

#### ■ 増井 / 「埋め込む記憶 -残心を用いた鶴巻温泉の魅力集積-」

- ・ 高層マンションにより分断されてしまった鶴巻温泉を残心を用いて市更新に対して鶴巻の記憶を継承させる提案。
- > 内容にまとまりがない。「残心」と都市体験を重ねるアイデアは面白いが、この説明では分からない。「残心」の意味からすると、建築や都市空間のカタチは変わらない。では、何が違うのか？



■熊谷 / 「きずな息づく居場所-子を育てるまちなか学びくうかん-」

- ・ 「子どもを預かる場所」だけではなく、「教育し、遊べる場所」要素を加え、一貫して子どもを育てる場所とする。
- > 前半の問題意識と後半の解決がずれているのでは？現実には追い越されているかもしれない。前期の話と子育て支援施設の問題とをつなげ、現状の把握とその解決方法について考える。

■柴 / 「花街の余韻-雁行が結ぶ神楽坂の今昔-」

- ・ 神楽坂花街の観光を活性化させ、観光客の流れが現代化進行の楔となるよう、花街路地と提案建築を結ぼうとした。
- > 雁行と神楽坂の関係性がよく分からない。なぜ観光地としての神楽坂花街は衰退するのか。神楽坂花街の見え隠れの演出とは何か？プログラムが安易である。もっと国内外の町おこしの事例を知ること。方向性は観光プログラムか。

■本間 / 「都市のゆるさ-多世代をつなぐ月島路地再編計画-」

- ・ 月島の路地を再編することで、路地を中心とした現代人が溶け込める地域社会、都市のリビングを提案する。
- > 路地をどうやって再編するのか？路地は入りづらいからいいのではないのか？入りやすくしたら意味がないのでは。月島についての理解が浅い。路地空間や道空間について学び、その上で月島の分析をする。

■増澤 / 「繋がるまち空間 ~蘇る諏訪の景観~」

- ・ かつて城下町・宿場町として栄えた旧市街地に再び活気を取り戻し、諏訪湖へのアクセスとなる様に繋げる提案をマスタープランで示した。
- > ストーリーが通っていない。提案を画で示す。水質浄化と温浴施設とギャラリーと町おこしをつなげられるストーリーを考える。分析図やマスタープランが必要。過去、現在の諏訪の説明を画で示す。

■古水 / 「学校から始まるライブハウス-吉祥寺ロック発信拠点-」

- ・ 地域住民が音楽を発表する場をつくり、音楽を聴く側・演奏する側を両方経験する住民が増え、吉祥寺が音楽に深く関わる街となる。
- > 音楽と建築や都市の思考と結び付ける必要がある。これは誰がやるのだろうか？ロック以外にも音楽はあるのではないか。吉祥寺を音楽の街として町おこしする提案もある。

□総評

- ・ 調べた内容はすべて載せ、パネル密度を上げる。
- ・ たくさん画を描く。
- ・ マスタープランは大本の計画概要をわかりやすく示す。

□次回ゼミ

- ・ 2011年10月13日 16:50~(予定) 山田記念室
- ・ 中間発表予行練習

## 吉松研究室 第24回議事録

日時 : 2011年9月29日 水曜日 11:30~16:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 上村 佐長 大塚  
: M1 加藤 細金 曾根田 田口(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 倉地 柴 古水 増井 増田 増澤 本間 熊谷  
欠席 : 矢板

### ゼミ内容

□ B4 卒業設計テーマ発表

### □デザインリサーチ発表

#### ■増田 / 「都市の礎 -南山の記憶を継承する小学校-」

- ・南山地区と里山の繋がりを改善し、里山の記憶を残していく提案を敷地に図示し、説明した。
- > ニュータウンの現実と半端な開発についてどこに重きをおいて考えているのか。今回選定した敷地ではどこに提案しても同じではないか。図面、模型を作成してみることに。

#### ■川福 / 「多重屋根のまちなか拠点 -大磯地産継承 Incubation Center-」

- ・敷地に提案を図示し発表した。
- > 大磯の海岸観光地化の原因と問題点は何か。高架下の提案はプログラムが弱い。海岸のある大都市であるバルセロナを調べる。提案の重きをどこにおいているのか。現在の提案では海のイメージがない。アイデアがほしい。

#### ■池田 / 「空な建築」

- ・空な空間を幼稚園に挿入することで子どもたちがどのような体験ができるのかを答えた。
- > 感性を刺激する空間が必要ならば公園の真ん中に作ればいい。しかし、それだけで子どもは自然を感じられるのか。モンテ・ストーリーは知っているのか。敷地をサーベイして何が必要なのか勉強する。

#### ■倉地 / 「Re:Agritecture」

- ・クラインガルテン、TTP,CAP など農業についての質問に答え、それをどのように提案と繋げられるかを答えた。
- > なぜ自給率を上げなければならないのか。敷地について提案性がない。自分なりに切り口を見つけ探すこと。敷地は練馬も良いかもしれない。

#### ■金子 / 「透明の中の見えない場」

- ・美術館の勉強をし、ネットの中でアートを観覧することについて話した。
- > アートをネットで見ることなどできない。根本から間違っている。何のために不透明の中に美術館がなければならないのか。今のままでは金沢 21 世紀美術館を東京に持ってくればよく、提案性がない。進まないのであればテーマを捨てる。

#### ■内田 / 「知の樹～霞境界を用いた電子図書館広場～」

- ・図書館の電子化について勉強してきたことを話した。
- > デジタルが進んでも紙はなくなるのではないのか。編集者も必要である。本の墓場は面白いのでもっとプラスにとらえられるか。一回全部捨てることも考える。ポルフェスの話しの方が面白いかもしれない。

#### ■増井 / 「都市に埋め込む記憶 -鶴巻温泉リノベーション計画-」

- ・都市の歴史の分析図を作成し、鶴巻温泉が衰退したについて話した。
- > 鶴巻を復活させる提案はある。源泉の位置や歴史的経緯を追う。ものまねするのは良いが、さらに良いものを提案しなければ猿まねである。こだわり、思いがなければならない。

#### ■熊谷 / 「息づく居場所 -子を、親を、地域を育てる次世代育成センター-」

- ・教育に関する現在の状況と乳幼児の教育システムについて調べてきたことを PPT で発表した。
- > 幼児期を3分割にすることが一番大事。子どもはテリトリー内に有りながら自由のある居場所を作り、管理することが重要。居場所に関して死角ではなく開いているのに居場所があることが魅力である。敷地は小さくても良いのですぐに行ける場所が良い。

#### ■柴 / 「花街の余韻 -神楽坂に残る和の風情を継承する-」

- ・神楽坂の石畳のある位置、花街の現状を敷地を用いて説明し提案に結びつけようとした。
- > 神楽坂は今でも花街なのか。芸者を文化として継承する動きがある。芸者、花街など日本文化について勉強し、分析する。インキュベーションセンターは建築ではない。マスタープランを描く。

#### ■本間 / 「ゆるさの居心地 -他世帯をつなぐ複数拠点住宅-」

- ・なぜ月島の路地がよく、昼夜の月島の表情を説明し、魅力を説明した。

- > 歩いただけではサーベイではない。絵を描くこと。月島の個性とは何か。本間のいうゆるさとは何なのか。なぜ、踏み込まないのか。建築的思考で立ち位置、卒設を考える。

■増澤 / 「重なる街空間～蘇る諏訪景観～」

---

- ・ 諏訪の都市の歴史と構造の分析図を作成し現在の状況を敷地を使って説明した。
- > 美術館のような温泉施設とは何か。何のために温浴を作るのか。敷地をどうしたいのか。誰のために何を作るかを考える。データを起こし絵にする。

■古水 / 「ライブハウス×学校（仮）」

---

- ・ 世田谷パブリックシアター、音楽の町おこし事例、水戸芸術館のシステムについて説明した。
- > クラブハウスの音響をもっと調べるべきである。建築を考えすぎである。市民に音楽を根付かせるためには何が必要かを考える。敷地は人が入ってきやすく、維持できて回転し続けられる場所、敷地の将来も考える。

□総評

---

- ・ 問題意識は不満や疑問を書き、それに対してどう答えられるかを考える。
- ・ コミュニティーを安易に使わないこと。
- ・ みんな同じような面積を提示しているが提案によって必ず異なるはずである。
- ・ 人の話をよく聞き受け取る。それができなければ自己満足で終わる。
- ・ 敷地は提示しているがなぜここにしたのか、その中身が重要である。

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年10月6日 11:05～(予定) 山田記念室
- ・ B4 卒業設計テーマ発表

## 吉松研究室 第 23 回議事録

日時 : 2011 年 9 月 22 日 木曜日 11:45~14:30 (昼休憩 1 時間)  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 田口 細金 曾根田 (記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

- B4 卒業設計テーマ発表
- M1

### 卒業設計テーマ発表

#### ■金子 / 敷地: 渋谷 / プログラム: 美術館

- ・ 渋谷、青山、原宿の間に位置しながら人通りが少ない敷地に美術館を置くことで地域の活性化を図る。
- > BBS に書いた質問に答えること。前期からまったく進んでいない。金子の一番の問題はプログラムである。今ある図書館をつくっても仕方がない。自分の提案のどこが魅力的で、何がやりたいのかをまず自分が理解する。その上でどんな提案ができるのか。自己満足の言葉を並べてごまかしても意味が無い。

#### ■倉地 / 敷地: 世田谷 / プログラム: 農業教育の支援センター

- ・ 農業大学では知識重視で実際の農業にはあまり役に立たず、逆に農業学校では知識面が弱い。両立した施設が必要である。
- > まずは現在の農業の最先端を知る。なぜ若者は農業に従事しないのかを国の政策、農業の仕組みをなどの現状を知った上で分析・提案をする。現実には追い越されていては意味が無い。現在の教育内容に問題があるのならば学校を作ればいい。そうではなくて倉地の作った建築によって農業へのモチベーションを高める提案を考えるべき。

#### ■増井 / 敷地: 鶴巻温泉 / プログラム: 図書館と美術館の複合施設

- > BBS にも書いたが、増井のオリジナリティとはなんなのか。銀座や神楽坂、奥に興味を持った先輩はたくさんいるし、図書館と美術館は去年 M1 の細金が行っている。それらと何が違うのか。増井のいっている奥深さは本当に「奥深さ」なのか。じつはもっと違う言葉の方はふさわしいかもしれない。先輩の言葉ではなく、自分の言葉でもう一度考えなおしてみる。先輩を追いかけ、追い越さなければそれはただの真似である。

#### ■熊谷 / 敷地: 横浜 / プログラム: 子育て支援センター

- ・ 支援センターに行けない人が多くいるが、理由として時間的问题があるのではないかと考えた。一つの建築を建てるよりも分散型のほうが適しているのではないかと考えている。
- > 子育て支援は昔よりは良くなったがまだ苦しいのが実情。とくに都心は公立に入れる子供は 50% にも満たない。昔はリタイアした世代や町が子供を見てくれていたが、今はそれができないから子育て問題となっている。ないからつくるのではなく、根本的な問題点、解決案を支援の場をつくるだけでなく、ソフト面からも考えなければならないかもしれない。建築計画は裾野が広いので敵も多い。熊谷はよく頑張っているが、より勉強してそれを絞ること。それがリアリティにつながる。

#### ■池田 / プログラム: 幼稚園

- > そもそも「空な空間」とはなにか。子供が対象なら裸足保育のように自然の中に連れていけばいいが、池田の提案は少し違うのではないか。そうでないなら手塚さんのふじようちえんとは何が違うのか。保育園と幼稚園の違いは何かをきちんと勉強する。違いを知っているから池田の提案と合わないと思った。センシティブは去年今野がやっていたが非常に難しい。幼稚園で 500 人は多すぎる。

#### ■川福 / 敷地: 大磯 / プログラム: インキュベーションセンター

- ・ 大磯は高齢化や西湘バイパス建設によって海と町が分断されたために漁業などの産業が衰退している。「組」という地域組織をキーワードに解決しようと考えている。
- > もっと大磯を分析する。現時点で海を見せることはできないし、リアリティがない。大磯は知名度も高いので可能性は十分にある。インキュベーションセンターというのはソフトの話で建築の問題ではない。西湘バイパスという明らかな分断原因があるので単に分散させてつなぐと言うよりもその原因を見えなくさせる方法を考える。

■矢板 / 敷地：中目黒／プログラム：インキュベーションセンター

- ・ 中目黒は工場と飲み屋で賑わっていたが、現在多くの工場がなくなり混在した昔の風景が失われている。
- > 中目黒にはどんな魅力があるのか。敷地かプログラムのどちらから攻めるのか決めなければ卒業設計にならない。僕は中目黒が特別だとは思わない。ならばここが特別だと明確に人に説明できなければならない。工場が減っている原因を理解した上で解決する。まずはコンパクトなストーリーを書く。

■柴 / 敷地：神楽坂／プログラム：コミュニティセンター

- > 支援プログラムならばマンションを借りればいい。神楽坂の何が問題なのか、柴の発見がある。もっと訪れやすくするのか、冷凍保存すべきなのか。冷凍保存はあまり建築的ではないが、中華街のように構造体を浮き上がらせることは建築的である。点と点を結んでではじめて線になる。また、前期の雁行の話は何も出てこないがそれでいいのか。神楽坂のどこを敷地にするのか再考すること。

■増澤 / 敷地：諏訪／プログラム：温浴施設

- > コンパクトにストーリーを書く。水の都であることを温泉に行つて実感することはまずない。それを繋ぐものが必要。曖昧な温浴施設で何を学ぶのか、足湯を作っただけで文化交流ができるのかももっとリアルに考える。諏訪には諏訪湖、片倉館、神社、歴史などたくさん切り口がある。一からもっとよく考えること。

■内田 / 敷地：神保町／プログラム：図書館

- > 古書店の風景を残してどうするのか。図書館と本屋の違いなど全体的に理解が浅い。本屋は商業施設だが図書館は公共のものだから公平性がある。置いてある本はまったく違う。本屋は書物のラインナップを歪ませることができる。また、本はなくならないと思う。一番問題なのはそれに対する理解が薄いこと。電子化では卒業設計のテーマにはならない。大学街の中心に古書店を置いて大学らしい雰囲気をつくるというのはある。今の話では自分の言葉に酔っているようにしか見えない。

■増田 / 敷地：南山／プログラム：小学校

- > ミニ開発は都市の歴史で多摩のような大規模開発は歴史を破壊しているというのはまったく疑問である。もっと外側から攻め、マスタープランを描く。小学校に興味があるのかもしれないが、それには小学校区も大いに関係していることを理解する。

■本間 / 敷地：月島／プログラム：集合住宅

- > 文献を読んでいたとしても実際に月島に行つて月島の良さを分析しなければならない。月島はぐんぐん悪くなっていっていると思う。なぜそうなったのかを考えることから始める。下町の生活を集めて集住にするのは研究対象としては面白い。けれど問題は自分自身で発見しなければならない。本当に月島に魅力を感じているのか、まったく伝わってこない。

■古水 / 敷地：吉祥寺／プログラム：音楽スタジオ

- > 音楽スタジオをつくること自体はいいが、これならば吉祥寺でなくてもいい。作者も古水でなくていい。どんな施設で、どんなことをすればいいのか。今のままではバンドをやっている人しか喜ばない。より多くの人に還元されなければ建築なんてつくらない。自己満足でなく、もっと広い視野で見ること。

□総評

- ・ まったく新しいコンセプトなんてないということをよく理解する。
- ・ ほんの少しオリジナルがあれば、それだけでまったく違う提案になる。
- ・ 絵に描くことはすごく重要であり、文章にするよりも難しい。
- ・ ダイアグラムを複数描いて伝えたいこと、やりたいことを整理する
- ・ 一方向だけでなく様々な分野から攻める。保育園を計画して保母さんに鼻で笑われるようなものでは困る。
- ・ 自分たちの常識を疑うこと。美術館や図書館は本来どういうものであったのか。歴史を勉強する。
- ・ 敷地系：川福、増澤、増田、柴。敷地に死ぬほど行く。誰よりも詳しくなること。
- ・ やりたいことがたくさんあっても選択できなければアイデアを使うことはできない。
- ・ まじめに勉強するだけでなく体を動かすこと。ただしいつも同じ時間にサーベイをしない。

□班分け

- ・ 大塚：柴、増澤
- ・ 上村：池田、本間
- ・ 佐長：増井、金子
- ・ 加藤：増田、熊谷
- ・ 曾根田：内田
- ・ 田口：倉地、矢板
- ・ 細金：川福、古水

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年9月28日 11:05~14:55 山田記念室
- ・ コンパクトなストーリーを書く。
- ・ 決まっていないものは未定でもいいが、ビジョンは示すこと。

## 吉松研究室 第22回議事録

日時 : 2011年7月28日 木曜日 15:30~21:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 曾根田 田口 細金(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

B4 卒業設計発表

### 卒業設計テーマ発表

#### ■倉地 / 「多方向へのシークエンス」

- ・ 敷地：銀座 プログラム：農業施設×工場
- ・ 非日常と日常の間をシークエンスでつなげることで普段知ることのない野菜や工業品の成り立ちを学べる施設を設計する。
- > 農業施設とは何か？なぜ銀座、なぜ高層建築なのか理由を述べなければならぬ。またどうシークエンスをいかせるのか。最低限のリアリティが必要。

#### ■矢板 / 「誘引空間」

- ・ 敷地：川崎 プログラム：コミュニティーセンター、図書館
- ・ 大型の集合住宅と住宅群の境界にコミュニティーセンターを設計する。誘引空間を用いることで多世代を引き込み川崎に定住する人たちのコミュニティを作りたい。
- > 弱いデータをもとに話をしても意味が無いし話があまりに単純。多世代が集うコミュニティーセンターは当たり前。えんパークは実現できている。

#### ■池田 / 「空な空間」

- ・ 敷地：井の頭公園、東雲 プログラム：自然博物館、ジブリ博物館リノベーション
- ・ 提案1、自然の大切さを再認識させ自然再生を促すような施設、またジブリ博物館のリノベーションをしたい。提案2、都市の中に住む子供たちの感性を育めるような空間(教育施設)を東雲に作る。
- > 必ずしも美術館が建築であるとは限らない。都市の中の教育施設はすでにある。データを見ただけで行ったことのない敷地を選ぶのはおかしい。ジブリに関係するものを進めるのであればジブリを知るべき。

#### ■川福 / 「内外混在空間」

- ・ 敷地：沼袋 プログラム：複合施設、集合住宅、交流センター、入浴施設
- ・ 地域住民の関係が希薄は地域に老朽化し使われなくなった建築をリノベーションし老若男女が交流する地域に馴染んだ建築を作りたい。
- > 地域の学生を交えてアパートをリノベーションすれば街は活性化するのか？学前で考えればわかるはず。前期に考えていたこととつながるか？

#### ■古水 / 「情動する空間」

- ・ 敷地：吉祥寺 プログラム：ライブハウス、ギャラリー、図書館
- ・ 吉祥寺、伊勢丹跡地に公的な場でありながら私的な空間のように居心地の良いライブハウスを作りたい。
- > 自分の好きなモノを作ればいいがそれなりの理由がある。ライブハウスは収益などの運営が重要。下北沢ではライブハウスが成立しているが吉祥寺で身近にするための古水の考えが必要。

#### ■本間 / 「ゆるい空間の居心地」

- ・ 敷地：月島、佃 プログラム：集合住宅 教育施設、福祉施設
- ・ 高層マンションにより地域との交流が薄れてしまっている月島 佃に低層集合住宅群を設計することで失われつつある人とのつながりを取り戻す。
- > 新しく建築を建てるのなら元々あるものを残したほうが繋がりを残せるのでは。ゆるい建築と繋がられるのか。卒業設計で集合住宅は難しい。

#### ■柴 / 「雁行空間」

- ・ 敷地：神楽坂 プログラム：博物館、学生支援施設
- ・ 神楽坂の持つ昔らしさとマンション建設による現代らしさの境界に雁行を用いた建築を設計し互いを緩やかに繋げたい。
- > 神楽坂を敷地にするのは少し難しいかもしれないが進めるのであれば雁行がどのように生かせるか考えサーベイをし、歴史を知ること。

■熊谷 / 「意外性のある空間」

---

- ・ 敷地：起伏がある街 プログラム：子育て支援施設、劇場
- ・ 様々な行為を生む「居場所」を空間にいくつも設けることで多くの人を引き込み、周囲との関わりや結びつきをもった建築を作りたい。
- > 子育て支援施設は空間的な提案が難しい。もしやるのであれば早く勉強しなければならない。劇場にするにしても利益や運営の仕組みを知らなければならない。子育て支援施設と劇場が合わせるとよいのでは？

■内田 / 「霞」

---

- ・ 敷地：神保町 プログラム：教育施設
- ・ 共存しながらもそれぞれの古い文化が独立している神保町の古本屋街に教育施設を挿入し互いをゆるやかに繋げ紙媒体の大切さを未来につなげたい。
- > 古本屋街に教育施設ではストーリーが通っていない。そもそも図書館にある本は古本では。ただの図書館になってしまうかもしれないし、お店の人は本が売れなければメリットはない。

■金子 / 「空間のよどむ場所」

---

- ・ 敷地：銀座、渋谷、秋葉原 プログラム：漫画喫茶 図書館 美術館
- ・ 「虚の不透明性」の概念を用いて全体を感じ、部分で身体的感覚を得られるような空間をコミュニティが希薄になってしまっている都市空間に作りたい。
- > 不透明な街に透明でありながら不透明な建築を作ることと銀座である理由は？漫画喫茶はコミュニティのことを重要視していないから今のままでいいのでは。

■増井 / 「意外性のある空間」

---

- ・ 敷地：日本橋 銀座 新宿 プログラム：美術館
- ・ 展示室に経験的認識を用いて人によって異なる認識を生む空間にしたい。訪れるたびに空間認識にズレが生じ、アートが変わることで毎回違う体験をする美術館をつくりたい。
- > 意外性だけでは卒業設計のテーマにはならない。美術館が人を驚かしてしまったらアーティストの立場がないのでは？

■増田 / 「都市を絡み取る建築」

---

- ・ 敷地：稲城市 プログラム：学校
- ・ 区画整理事業により山が削られ集合住宅などが建てられてしまう南山地区。ヴォイドが打ち込まれた建築を置くことで外部の流れを建築内部へ引き込み、また内部のアクティビティを外部に発信し、山のあった記憶を残し(象徴し)、生活の軸となる建築を目指す。
- > 問題意識もありストーリーも流れているのでこのままサーベイを進める。敷地が少し大きいのでスケールに注意する。

■増澤 / 「すみかさがし」

---

- ・ 敷地：浅草 プログラム：複合施設
- ・ 人々のつながりが一部で完結してしまっている下町。下町の良さをもった建築(交流施設)によって多世代の交流を生み町全体の活性化をしたい。
- > 下町に下町のマネをした大きな建築を建てるのはおかしい。もし本当に下町で進めたいのであれば一つの町に絞り徹底的にサーベイすること。実家のある長野を敷地にしたほうが進めやすいのでは。

□総評

---

- ・ スケール感がみんなわかっていない。
- ・ 選んだ理由、なぜが言えないと相手に伝えられない。
- ・ 問題意識が必要。メインテーマが今のところない。
- ・ 最低限のリアリティが必要。
- ・ 駅、高速などのインフラの近くや大きな敷地を選ばない。
- ・ 自分の興味と何が繋がるかいくつも考えること。

□次回ゼミ

---

- ・ 9月のはじめに卒業設計 Blog にストーリーを書きこむこと。



# 吉松研究室 第21回議事録

日時 : 2011年7月14日 木曜日 15:00~18:30  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 上村 佐長  
: M1 加藤 細金 曾根田 田口(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 倉地 柴 古水 増井 増田 増澤 矢板 本間  
欠席 : 大塚 熊谷

## ゼミ内容

- B4 デザインリサーチ模型提出
- カメラの使い方

## デザインリサーチ発表

### ■増田 / 「素の建築～都市を絡み撮るヴォイド～」

- ・ 外部から交差するようにヴォイドを挿入し周辺環境を内部に引き込み素の要素を用いた公共施設を作成した。
- > 屋根がフラットで模型はあまり面白くないが4年生レベルになった。素を作ることに苦労していたが、最後は建築になったのではないかと。

### ■川福 / 「屋根の重なり～屋根を用いた内外混在空間～」

- ・ 屋根を特徴とする実際の建築のレファレンスを作成し、それを元に住宅模型を作成した。
- > レファレンスを図面化、モデル化することは真似事ではあるが空間を読み取るにはとても良い。図面や模型を作ることで空間を理解できたのではないかと。

### ■池田 / 「空な建築～形のないものを感じる空間～」

- ・ 隙間や壁の厚みを変化させ外部から感じられる自然を曖昧させる住宅模型を作成した。
- > 案としてはあまり良いとは言えないが前回から頑張った。問題点は内部空間しか考えていないことである。また、日本建築と比べると魅力に劣る点がある。五感を削ることで他の部分が繊細になることを考える。

### ■倉地 / 「隔空間連続と切り替わり～連続性と予測外が反復する～」

- ・ シークエンスを感じさせるための距離と角度を分析し、住宅を設計した。
- > 手の内で同じことを繰り返してしまっている。分析するのであれば大きく動かすのではなく微かに操作し空間を構成すること。

### ■矢板 / 「誘引性のある空間」

- ・ 誘引性を生む要素である、スケール、明暗などからギャラリーの設計をした。
- > 人は単純に高揚しない。独りよがりかと思いが激しいのか。答えを急ぎすぎている様に感じる。

### ■金子 / 「不透明感のある透明建築～虚の透明性による空間創造～」

- ・ 曲面とレイヤーを重ねることで不透明になることは虚の不透明性に関係しているのではないかと考えた。レイヤー状に並べ、開口の密度を変化させた壁で構成した住宅を作成した。
- > 虚の不透明性がわからなくなったのか。曲面で不透明を作るのか、違う方法で作るのか。今まで作成し、失敗したモデルもパネルに載せること。

### ■内田 / 「霞～漂う境界～」

- ・ 絵巻物に描かれた霞を数値化し、平面図に落とし込み、曖昧な境界のあるギャラリーを作成した。
- > 自分のテーマに向き合わなければこのような模型ができる。霧も霞も同じなのか。金子と何が違うのか。もっと微細な操作からモデルを作成すること。

### ■増井 / 「意外性のある空間～経験による認識上の空間誇張～」

- ・ 壁の厚みを操作し、空間の拡張を感じられる住宅を作成した。
- > 壁が分厚いだけでは空間がもったいない。周辺の建物とどのような関係性があるのか。外部が拡張することで何がいいのかを考える。

### ■熊谷 / 「居場所～流れのなかによどみをつくる～」

- ・ 天井の高低差から居場所を作り出すモデルを作成した。
- > 前回作成したアルコブを居場所としたモデルよりはよくなった。モデルにプライベートスペースを作っても意味がない。最低限のプライバシー内部をもっと微妙に操作したオープンスペースから空間を構成するべきである。

### ■柴 / 「雁行の結び目」

- ・ 雁行によってできる死角が空間に格式をもたらすのではないかと分析し多重雁行住宅を作成した。
- > 1週間で模型が変わっていない。内部空間においては考えて設計しているが、外部は開口も開いていく、全く考えられていない。外部も含めて建築を考えること。

■本間 / 「ゆるい空間の居心地～専用と共用の間～」

- ゆるさの感じる空間とは何かを分析し、段差の大きさが繋がっているようであり隔てられてもいるような空間を住宅モデルで作成した。
- > まじめにやっているように思えない。提案に関しては悪くないがデザインとスケールが良くない。ゆるさについていつまで経っても答えが出ない。自分だけで進めても進まない。院生や、友達と意見交換を進める。

■増澤 / 「もうひとつの空間～良い所取り空間～」

- ・ 壁、床、壁の引っ張る面積を操作することで、内と外の境界を曖昧にさせる住宅モデルを作成した。
- > 失格。完成できるのか。本人ができないと思っていたらできるわけがない。パネル、模型共に完成させること。

■古水 / 「生音を感じる空間～ライブハウス体験による空間～」

- ・ 府中 Flight の建物をモデル化した。モデルからライブハウスとホール、映画館とのスケールや空間の感じ方の違いを分析した。
- > やってはきたが今回も未完成。ライブに関する分析が一つもない。みんなが知っているようなことを調べても意味がないので誰よりも詳しくなる必要がある。モデルにできないのであれば勉強まででいいのでしっかりやってくる。外国と比較することも必要。

□総評

- ・ 梗概について。金子、倉地、柴、池田は良い。矢板、増井、増田、川福、内田、熊谷はそこそこできているが未完成。古水、本間、増澤は一からやり直し。
- ・ 大事なことは中途半端に完成させないこと。
- ・ 2度同じことをやらないために今まで設計したデータは残しておくこと。
- ・ パネルに載せる図面は大きい必要はない。密度のあるパネルを用意する。

□カメラの使い方

- ・ ズームせずに撮る。(周辺がぼやけるため)
- ・ マクロモードにせずに撮る(ピンぼけするため)
- ・ 一番手前にピントを合わせない。
- ・ 絞りはできるだけ絞る。(荒さを軽減できる)
- ・ フラッシュは使わない。(キレイな陰影が撮れない)
- ・ 手ぶれしないように脇を締める。
- ・ 水平垂直を意識して撮る。
- ・ できるだけ整体して撮る。あおって撮らない。
- ・ できるだけ撮影する。
- ・ フォトショップで修正する。(補正するとあれるのでできるだけ大きなサイズで撮影する)
- ・ 自然光で撮影する。(逆光はできるだけ避け、人工光はできるだけ一つにする)

□次回ゼミ

- ・ 2011年7月28日 15:00～(予定) 山田記念室
- ・ B4 卒業設計テーマ発表
- ・ M2 修士論文設計発表

## 吉松研究室 第20回議事録

日時 : 2011年7月7日 木曜日 15:30~17:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 佐長  
: M1  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : 大塚 上村 曾根田 田口 細金 加藤(記)

### ゼミ内容

□ B4 デザインリサーチ発表

### □デザインリサーチ発表

#### ■倉地 / 「シークエンスのある切り替わり」

> シークエンスと切り替わりはどう違うのか？シークエンスを生み出すきっかけのようなものを見つけようとしているのか？それとも、期待を裏切るような関係性を作ろうとしているのか？このモデルはなぜ面白いのか考える。

#### ■金子 / 「透き通る建築」

> 「虚の不透明性」は面白いし、透明で不透明を作り出そうとする試みも良い。その為の仕組みとして曲面がある。では、曲面以外にはどんなものがあるのだろうか？タイトル再考。

#### ■内田 / 「霞」

> 霞をそのまま表現するのではなく、建築的な仕掛けや認識方法を考える。それが、ゆらぎやモアレなのかもしれないが、表層的なものに終わらないようにする。言葉を探す。9期櫻井に似ている。タイトル再考。

#### ■矢板 / 「引き込む空間」

> 高揚空間は過去に同じような案がいくつかある。引き込まれる魅力的という意味で、建築の理想形。その先を絞るには言葉が必要。attractive を調べる。思考のフローをトレースし、タイトル再考。

#### ■増井 / 「意外性のある空間」

> あまり意外性を感じない。倉地とどう違うのか？10期渡邊や11期佐長に似ているが、彼の方が意外性に対する分析が良い。今までの思考のフローをトレースし、自分の興味をサーベイする。

#### ■池田 / 「雨を感じる建築」

> 良いテーマなのに3ヶ月間足踏み。ただ、透明ではない方向へ踏み出したのは評価出来る。雨を感じる建築は、雨が降ってない時は何も感じないのか？雨をただ感じるだけで良いのか？思考のフローをトレースし、タイトル再考。

#### ■柴 / 「ずれ」

> 雁行を外観ではなく、複数の理解をしようとするのは良い。視線の抜けだけでは弱い。見えない雁行(虚の雁行)のようなものを作り出し、それらを組み合わせられると面白いのか？既存建築の分析必要。タイトル再考。

#### ■増田 / 「素の建築」

> 今までの分析やモデルを思考の流れとしてパネルにまとめることで、「素の建築とは何か？」を示す。素の建築だけでは裸の建築との違いが分からない。より具体的な副題を付けられるか。素や素形をテーマにしている建築家の真似になってしまうのならテーマにならない。屋根をかけることが建築の素という考えから進めることもできるのでは。増田のしっかりとした素の定義が欲しい。

#### ■川福 / 「屋根の可能性」

> 入れ子になった屋根を探してきたのは面白い。日本の伝統建築にもあるし、建築家の作品にもある。屋根でない屋根を見つけ、それらを分析することで、興味の対象を明らかにする。レファレンス必要。前期はそこまで出来れば良い。

#### ■増澤 / 「あっち=こっち」

> 中間領域に興味があるのか？境界が混在することに興味があるのか？今までの「あいまい」に関する多くの卒制や研究の興味とどこが違うのかを明らかにする。レファレンス必要。前期はそこまで出来れば良い。

#### ■熊谷 / 「居場所」

> 未完成。壁に囲われていないのに、居場所が見つかることが面白い。そのきっかけは何か？段差か？光か？ワンルームなのに、居場所がたくさん見つかることはあるか？タレ壁や段差以外に空

間を区切るものはあるか？レファレンス必要。結界をつくりだす。

■古水 / 「ライブ建築」

---

- > 未完成。ライブハウスを徹底的に調べる。計画学、音響工学、設備環境工学等々。演奏者の視点。客の視点。運営者の視点。必要ならば、レファレンスのインテリア模型を作成。理想的なライブハウス建築を考える。前期はそこまで。

■本間 / 「空間のゆるさ」

---

- > 未完成。テーマとしては良い、過去の事例も建築家で言及する人も多い。「あいまい」や「中間領域」とはどう違うか？ゆるキャラのゆるさに近い建築はどれか？自分の興味をサーベイし、レファレンスを探し、模型を作成。前期はそこまで。

□総評

---

- ・ 4年生のレベルのパネル、図面、模型、報告書をもてくること。

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年7月14日 15:00～ H棟山田記念室
- ・ B4 デザインリサーチ模型提出
- ・ M2 修士テーマ発表

日時 : 2011年7月4日 月曜日 13:30~20:30  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 田口 細金 曾根田(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

---

## ゼミ内容

□ B4 即日設計

---

### □即日設計

課題の要点

- B4 は公開空地を理解していない。公開空地は集合住宅が管理している大きな公園のような場所で、多くの人が入り込むことができる。
- 南からしか採光が望めないが、公開空地に面しているので1Fでも光が入り、アクセスも可能。
- 敷地内を通過させるのもいいがメリットがない限りやらない。
- 一人30㎡で40人ならば400㎡の個室のほかに800㎡のスペースが出来ることをまず把握する。
- 敷地が600㎡なので建ぺい率60%なのでmaxとれば4階建て以上になるはず。
- 1番は南採光+個室で解くのがいいかどうか

---

#### ■増田 / 「留学生の日本伝統体験記」

> 1F 個室の引きは大事だが、真ん中のスペースの使い方が下手。建ぺい率オーバーか。でも構成としては悪くない。採光も考えられている。パースの人以外は戦えるくらいのレベルにはなったか。

---

#### ■増井 / 「ふれあう」

> これの問題点はほとんどの場合採光が取れないこと。また、この廊下のようなスペースではバスケットなどはできない。スケール音痴。でもシンプルでクリアな案。増井もパースの人以外は戦えるくらいのレベルにはなったと思う。

---

#### ■古水 / 「生活ユニット」

> 真ん中に高層で積まれた省スペースの建築が建った案。面白くはないが、ある程度条件には答えられているひとつの回答。偶然ではあるが1Fがピロティになって庇空間にもなっている。古水も良くはなったが、上の二人に比べると弱い。

---

#### ■内田 / 「40人のラウンジハウス」

> 内田の考え方としてはいいが、建ぺい率がオーバーしているし、階段などは共有室を通っていかねばならない。他の人と同様に採光も検討が必要。自分で問題点が分かっていることが大事。

---

#### ■本間 / 「交流生活」

> すべての個室に平等に採光が取れているところはいいが、やはり南側の全面を塞いでいるのは苦しい。中庭だけではまだ足りていないだろう。またパースがまったく魅力的にみえないので見せたい空間を正しく選ぶこと。

---

#### ■柴 / 「土間を渡って、」

> 倉地よりはコンパクトではあるが、普通は南と真ん中に光が入るようにする。つまり帯状にするか囲むようにするか。南の採光がないのは苦しいが帯状の案としてはある。

---

#### ■倉地 / 「異文化の層をつなげる」

> 配置計画が最悪。敷地境界から50cm以上離すのは建築の常識。問題外と取られてしまう。真ん中の階段が吹き抜けになるのはいいが、採光としてはやや不十分なのでもう少し広くするといい。

---

#### ■熊谷 / 「集う」

> 左側の解き方はいいが、右側があまりよくない。未完成。1階の半分をピロティにしていることはいいが、採光が取れている居室とほとんど取れていない居室の差が激しい。

---

#### ■金子 / 「広場を囲んで」

> これも採光がまったく解けていない。公開空地から通り抜けられるのはいいが、敷地の中を通すならそれなりの理由をつけ足さなければならない。必要面積も満たしていないのでは。

■矢板 / 「交流の生まれる場」

> 矢板は周辺も含めて描けといっているのになぜ描かないのか。未完成。中庭を分散させると採光も不十分になるし、苦しくなる。もっとシンプルに考えることを心がけること。

■川福 / 「学び合う場所」

> 川福も柴と同様に空間の使い方がもったいないし、こんなに敷地いっぱいには建てられない。断面図に描かれているように建物の中心に光を入れた方がいい。

■池田 / 「友情を育む インターナショナル ロッジ」

> これも空間がもったいないし、工夫しようとはしているが採光が厳しい。条件を整理しまず構成をかくこと。そのうえで解けばもう少しシンプルに解けたはず。

■増澤 / 「めぐり会う」

> 未完成。採光も考えられてないし、共有スペースなども考えられていない。真ん中の個室を外側につめ、大きな中庭や吹き抜けをつくるならあるかもしれない。

□総評

- 実力がはっきりと出る課題。全員周辺を読み込めていない。デフェンスが極端に弱い。
- 出題者の気持ちになって意図を読む。そこからスタート。
- 条件整理をまずすること。数字で大体解ける。
- 個室は平等につくるのが基本。
- 高層にして1Fをパブリックスペースにすてしまうのもひとつの解答。
- どれだけ多くのマンションに住んだり、見た経験があるかが重要になってくる。

□次回ゼミ

- 2011年7月7日 15:00～ 山田記念室
- デザインリサーチ最終前発表

## 吉松研究室 第18回議事録

日時 : 2011年6月30日 木曜日 15:30~21:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 曾根田 田口 細金(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

B4 デザインリサーチ発表  
即日設計

### デザインリサーチ発表

#### ■倉地 / 「シークエンスのある切り替わり」

- ・ 吹き抜け、天井の操作、帯状の空間の連続、ヒルサイドテラスの分析からシークエンスを感じられるモデルを作成してきた。視線が多方向に抜けることでシークエンスが生まれやすいと考えた。
- > シークエンスはずっと連続してはならない。隠すことで連続が生まれる。垂直方向にも視線を意識した建築を作ると良い。

#### ■金子 / 「透き通る建築」

- ・ 壁面の開口、局面、重なりによって虚の不透明性モデルを作成してきた。
- > 虚の不透明性には透明が必要。第一印象と第二印象の違いだったり透明だけどぼんやりして向こう側が見えないのが不透明なのか。何をもちょうと透明とするのが重要。どうして透明なものでモデルを作成しないのか？

#### ■増井 / 「意外性のある空間」

- ・ 先を想像させることで意外性を生む空間を壁の貫入と厚さの操作によって作成してきた。距離の感じ方のずれによって意外性を感じる考えた。
- > モデルとしては壁の厚さで考えている方がよいが増井が目指しているものがよくわからない。

#### ■柴 / 「ずれ」

- ・ 雁行によって生まれる見えない境界に着目し平田さん、西沢さん、妹島さんの建築をレファレンスに挙げモデルを作成してきた。雁行によって生まれる空間の繋がりに魅力を感じる。
- > レファレンスを挙げてきたことはよい。問題意識を明確にしモデルをいくつか絞ること。立体を進めることはよいがまず平面を理解すること。

#### ■熊谷 / 「空間のよどむ場所」

- ・ アルコーブとデンの考え用いてよどみギャラリーを設計した。よどみはある程度の人がいないと発生しないと考え選択性のある居場所を点在させた。
- > 人によってよどみが生まれるのなら建築が関係なくなってしまう。また壁によって生まれる空間ではなく階段の真ん中に居場所があったように小さな渦、きっかけ、ちょっとしたゆがみを作ることが熊谷の興味であると思う。今回のギャラリーのモデルは検討違い。

#### ■矢板 / 「明暗のある空間」

- ・ キースヘリングの美術館では暗い空間に引き込まれるような体験をした。これをもとに明暗のコントラスト、グラデーションをたれ壁によって発生させるモデルを作成した。
- > 日本建築が何百年も前からしている。何を研究し、検討しているモデルなのか今回は伝わらない。論理的に話を進めること。

#### ■増田 / 「素の建築」

- ・ マッサなもの引くこと、薄い壁による骨組みの操作によって素の建築モデルを作成してきた。
- > スケルトンと骨組みはと素は一緒か。裸の建築と素の建築はどう違うのか。どうしてモデルが素の建築を表現しているのかをしっかりと説明できるように整理すること。

### 総評

- ・ みんな一番最初の頃の方がいい。
- ・ 一度初めに考えていたことを振り返ってみること。
- ・ いままでやってきたことを順番に並べ編集する。
- ・ なれないことはやらずに一步步進めていくこと。
- ・ テーマは全員問題ない。

## □「レストランを併設した郷土資料館」

### 課題の要点

- ・まず駐車・搬出入などの交通計画をおさえること。
- ・表と裏をきちんと分離する。
- ・レンガ造の既存建築は尊重する事が大事なので合体することはまずしない。
- ・駐車場は3m×6m。
- ・車のサイズは幅1700mm～長さ4500mm～4600mm。
- ・住宅に比べてシンプルな構成を考えること。

### ■増田 / 「復活!!芸術のまち」

- > 一番良く解けている。レストラン、展示室の外に縁側を設け人を奥に引き込んだり、既存建築に新しいプログラムなどを提案していてよい。ただしパースがうまく表現できていない。

### ■増井 / 「歴史を巡る資料館」

- > 表、裏の計画は解けている。既存建築をあまりいじらない方が良かった。パースの雰囲気も良い。

### ■倉地 / 「昔と今をつなげる輸入食材レストラン」

- > 必ずしも道路側に搬出口を置くのではなく営業時間外などで搬出を解決する考えはある。よく出来ているがあまりにストレートすぎる。

### ■熊谷 / 「ぐるり。歴史を味わう」

- > 回遊性は悪くないがレストランの配置がよくない。木々で囲ってはいるが眺望があまりよくないので利用者のことを考えること。

### ■古水 / 「レンガの後追い ぬくもりの木」

- > シンプルでいいが、裏が全く考えられていない。どうせなら裏一列分をすべて裏にしてしまい、時間で区切るなどして交通をコントロールする案のほうが良い。

### ■金子 / 「歴史と共に」

- > 構成は悪くないが搬入口を左側の奥に設定することで無駄な空間が生まれてしまっている。全面からのアプローチをもっと意識すること。

### ■内田 / 「光降りる資料館」

- > 新築部分もレンガで作り既存と結ぶのはピントがずれている。搬入口を奥にすることで無駄な空間が生まれている。アプローチが閉鎖的である。

### ■矢板 / 「流れる資料館」

- > 既存建築をエントランスショップにするところまでは良いが裏の機能を表に配置しすぎてしまい全面をプロテクトしてしまっている点がよくない。

### ■池田 / 「大きな庇の下で」

- > 歴史的建築に新築をくっつけてはいけない。展示室の配置のバランスがバラバラになっている。既存建築をレストランにすることは難しい。

### ■柴 / 「階段でつながる」

- > 展示室、レストランの繋がりはいいが搬入口の位置が悪い。トラックも入りづらく空間の使い方がもったいない。

### ■川福 / 「歴史を囲む」

- > 搬入口位置が悪く無駄な空間が生まれてしまっている。メインの空間となる部分に裏の機能が固まってしまっている。パースに着色をした方が良い。

### ■増澤 / 「つながる」

- > 未完成。時間配分、レイアウトをしっかり考えてから書き始めること。搬入経路の道幅が狭くこれでは搬出入できない。閉鎖的な空間になってしまっている。

## □次回ゼミ

- ・ 2011年7月4日 13:00～ 12号館501製図室
- ・ 即日設計



# 吉松研究室 第17回議事録

日時 : 2011年6月23日 木曜日 15:00~21:30  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 上村 佐長 大塚  
: M1 加藤 細金 曾根田 田口(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 増井 増田 増澤 矢板 本間  
欠席 : なし

## ゼミ内容

- B4 デザインリサーチ中間発表
- 代官山インスタレーション

## デザインリサーチ発表

### ■池田 / 「雨のような建築」

- ・ 雨から要素を抽出し、視覚的に雨を疎密によって表したモデルと見えない雨を分析し、人によって場を形成させるモデルの2パターンを作成した。
- > 模型にはスケールがあり、倍にすることは微細な変化とは言えない。なぜ5感が揺さぶられるのか。池田の思う雨の建築は何か。レファレンスがなければ、否定することも求めることもできない。ゴールイメージは何なのか考えること。

### ■川福 / 「屋根」

- ・ 男木島の集落の屋根をアイレベルで見ることの魅力を感じ、垂れ壁に角度をつけることによって空間に境界を作るモデルを作成した。
- > 垂れ壁を挿入することは男木島で体験したことと関係があるのか。屋根がなぜいいのか自分自信でもう一度考えること。

### ■古水 / 「音楽を聴くことで生まれる空間」

- ・ 音楽を聴くことで生まれる空間モデルの作成を試みた。
- > 音楽を聴くことによって空間が見えなければならない理由は何なのか。悩むのはわかるが、悩むのは答えを知っているからではないか。モデルから何を失敗したのかわからなければ意味がない。

### ■内田 / 「霞」

- ・ 北の通夜物語絵巻物から霞の度合いを求め霞境界モデルとモアレモデルの作成をした。
- > ゆらぎとモアレは何が違うのか。モアレを用いることで、どんないいことがあるのだろうか。モアレの壁によって境界を作ってしまったのではないか。

### ■増澤 / 「つながる境界」

- ・ 内部と外部が交互に現れることで境界が曖昧になるのではないかと考えた。内部と外部が混在しているようなモデルを作成した。
- > 内部と外部の混在とは何か。境界を理解しているのだろうか。自分の興味あることをもう一度考え直し、説明できるようにする。

### ■本間 / 「現代のゆるいー私の好きなゆるいものー」

- ・ 空間は連続していながらも空間を区切ることで空間にゆるさを生み出すモデルを作成した。ゆるさは段差と天井の高さに関係があるのではないかと考えた。
- > ゆるさとは何を指すのだろうか。許容範囲が広いことがゆるいなのか、誰にでも快適に過ごせるような空間がゆるいなのか、自分自信の方向性を明確にすること。

## 総評

- ・ 後半組に関わらず全員サーベイなど動いていない印象である。
- ・ 後半組はもう発表をせずにパネル提出である。よく考えるように。
- ・ モデルはもういいのでプログラムを当て込み設計すること。

## グループ編成

A班: 上村・加藤 熊谷・本間・池田・増田  
B班: 曾根田・細金・大塚 川福・内田・古・水・柴・増澤  
C班: 佐長・田口 増井・倉地・金子・矢板

## 次回ゼミ

- ・ 2011年6月27日 13:30~(予定) デッサン室
- ・ 即日設計

## 吉松研究室 第16回議事録

日時 : 2011年6月20日 月曜日 13:30~21:00  
場所 : 12号館501製図室、準備室、H棟第2研究室  
出席 : M2 上村 佐長 大塚  
: M1 曾根田 田口 細金 加藤(記)  
: B4 池田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 増井 増田 増澤 矢板 本間 内田 古水  
欠席 : なし

### ゼミ内容

B4 代官山インスタレーション

### 代官山インスタレーション

■古水 / 「木は感じている」「木のささやき」「きこえる?きこえる」

> 木の擬人化は前にもあった参考にすること。分かりやすく展開性がある。鼻より目のほうがよい。昼も夜も楽しめるデザインがよい。

■川福 / 「その先は……」「木のささやき」「きこえる?きこえる」

> 敷地がカーブしていて長いからなかなか難しいが、距離を糸電話で表現出来ればコミュニケーションを生み出せるかもしれない。

■増田 / 「空気の家」「トンネルの家」「ヒルサイドダイニング」

> どのような素材でどのように施工するのが大事、ストーリーがどのようなものなのか表現すること。

■池田 / 「小人の世界」「公園の中の線路道」「雨降る空間」

> 作成することは可能だが今ではよくある提案。大きなものを印刷すると意外にお金がかかるので気をつけること。

■熊谷 / 「代官山地底人」「成長中」「Calling」

> 既視感がなく、普段意識しない場所に提案している。プレゼンは良いが問題意識を持っていないので問題意識を書くこと。

■矢板 / 「切り取る風景」「代官山の軌跡」「川」

> 足元の計画は耐久性を出すのが難しい。子どもがいじってしまうので毎日見張りに行かなくてはならない。

■増井 / 「ホタル」「このさきに」「時を刻む風景」

> 夜は綺麗だが昼間は見る事ができないし、ライトが芝に埋まっていたら危ない。

■金子 / 「Green Chair」「空飛ぶベンチ」「looking me」

> アートというより家具のデザインに見える。ふわりとした軽いベンチにはどのような意味があるのか説明する。

■柴 / 「ドレス」「小人たちの旅行」「私のワンちゃん預かります」

> 犬はそこにおいておいても何か伝わらないのではないかと。ドレスは9期峰尾の提案とかぶってしまう。

■倉地 / 「侵入者」「代官山産ノリツッコミねぎ」「代官山と仲良しになる」

> 侵入者のような足跡が続いていくようなサイン計画はよくある提案。公共の場に提案する場合は通行のじゃまにはならないようにすること。

■増澤 / 「チーズ」「レールから逸れた電車」「ヒルサイドゲーム」

> チーズ(地図)が切り分けられ街の中に散らばっているストーリーは面白い。地図を立体的に切り分けるとどのようなようになるのか?

■本間 / 「幸せの鐘」「ウエディング」「子供の街」

---

> インスタレーションアートとしてはどの案も上手く出来ているとは言えない、作品にメッセージ性が必要である。

□総評

---

- ・ 問題意識が大事。
- ・ コミュニケーションを生むものであると良い。
- ・ 予算20～35万で一ヶ月成立する必要がある。
- ・ プレゼンテーションなので丁寧に描いた絵を持ってくること。

□次回ゼミ

---

- > 2011年6月23日 15:00～ 山田記念室
- > DR 中間発表の準備をすること

# 吉松研究室 第15回議事録

日時 : 2011年6月16日 木曜日 15:30~19:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 田口 細金 曾根田(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

## ゼミ内容

B4 デザインリサーチ中間再提出

## デザインリサーチ中間再発表

<合格>

■熊谷 / 「居場所」A-

- ・壁、床、天井などの要素に分けて分析し、住宅スケールの居場所モデルをつくった。まちの広場のような空間を作りたいと考えているので、今後はスケールの調整などをしていきたい。
- > 一応、一番理論的に進んでいる。これとこれはどう違い、なにを足したなど、模型でなにを実験、スタディをしているのかプロセスがわかる。よどみとアルコーブとはどう違うのか。似ているけれど、違うというものをあげていき、なにが違うのかを考えていく。

■増田 / 「素の建築」A-

- ・現代の建築を減算していくことで素の建築に近くなるのではないと思った。屋根をはがすこと、機能としてのヴォイドから建築をつくることで素の建築ができないか考えた。
- > 無駄をはぎ取れば素に近くなるというのはわかるが、はぎ取るにはスタートに無駄が必要というところが問題。マッスからつくられたものの方が素により近い。熊谷のよりも建築的発想ができていると思うが、既知から抜け出せていない。

■倉地 / 「過渡のある空間 連続性と予測外が反復する」B+

- ・一瞬で切り替わっていく空間を目指して丁字をもとに、外部から内部をみるのではなく、内部空間だけで完結できる住空間を試作した。
- > すごく真面目に建築へ落とし込もうとしているところはよい。しかし、ドアをなくせば意図しなくてもこの形が出来上がってしまいそうである。ミースの初期にも見えるし、そのモデルは日本建築であったりもする。倉地らしい新たな切り口を持ってくる必要がある。

■金子 / 「透き通る空間 不透明な透明性」B+

- ・実の透明性・不透明性、虚の透明性・不透明性を考え、材料の透過性、開口から考えたモデルを制作した。
- > 自分の考えたモデルをたくさんつくってくることはほめられるが、建築にはなっていない。なにを持って透明性を判断するのが重要。ただ個別につくるのではなく、きちんと順序立ててレシピのあるモデルを制作すること。

■柴 / 「ずれ 雁行型の魅力」B+

- ・通常平面上で配置される雁行型を断面方向に持っていくことで新たな魅力が生まれると考え、500mm単位でずれを大きくした模型を作製した。
- > 垂直方向のものは「雁行型」なのか。なにをもって雁行型と呼ぶことができるのかを定義してみる。平面の視点はひとつしかないで、垂直方向に持っていくのは面白い。壁を抜いてみるのもいい。けれど雁行型ではなくなってしまうのかもしれない。

■増井 / 「Image model 空間を隠すモデル」B

- ・正面から入ってくる印象と平面が全く違う空間を作ることで意外性を生み出したかった。
- > この模型がいけない理由は外観がないこと。今回は空間モデルをつくるのではなく、建築をつかってほしかった。外観のない空間は建築ではない。増井は空間をきちんと切り替えたいと思っているが、同様に曖昧な切り替えも意図的につくられている。実は二つとも同じような話だということを考えてみることも必要。

■矢板 / 「明空間と暗空間」B

- ・下北沢の闇市のように明暗の連続がある空間が作りたかった。
- > 矢板も増井と同じようにインテリアだけで終わってしまっている。パネルをつくるよりも建築のスタディをしてほしかった。話を整理することが苦手ならば建築の形をつくってしまうというやり方もある。

<不合格>

■池田 / 「雨のような建築」B-

---

> ゼミをなめているとしか思えない。2ヶ月半前から何も進んでいない。雨とは何なのか、何を求めているのかをもっと深く考えていかなければ進むわけがない。なぜ踏み込んでいかないのか。

■内田 / 「霞」B-

---

> ゼミをなめているとしか思えない。3年のときの方ががんばっていた。同じ内田だと思えない。もっと自分を疑い、前に進めるように一步一步踏み出していく。アイデア一発ではなく話を整理し、デベロップしていく。

■川福 / 「屋根」B-

---

> 真面目にやっているが、1年生の秋頃ならばできそう。こんなにいろいろなことを考えなくてもできる空間になってしまっている。何度も言っているがもっと建築を勉強し、建築家が考えていることをきちんと知ること。知った上で自分ならではの考える。

■増澤 / 「つながる境界」C+

---

> 真面目だが、なにが言いたいかわからない。なにを意図してこの空間を作ったのか相手に伝わらなければ意味がない。きちんと言葉できるようにする。パネルの模型写真が小さいのは自信のなさの現れ。

■古水 / 「音楽可視化空間」C

---

・ 音楽と雑音の差を考え、都市の中での雑音のようにならないよう建築をつくる。  
> オランダ音楽はよく雑音と呼ばれる。古水のしようとしていることが伝わらなければ、それは雑音にすぎない。建築に ppt はついていない。模型でわかるようにしろ。

■本間 / 「現代のゆるい」C

---

> 何もしていない。一番ひどい。今週はなにをやってきたのかまったくわからない。

□総評

---

- ・ イメージをイメージのままにしておいても実力にはつながらない
- ・ きちんと体系をたて伝える。それが論理である。
- ・ 伝わるように図面を書く。説明をする。説明ができないなら形をつくる。
- ・ モデルは伝えるためにある。つくったことに自己満足していたのでは意味がない。
- ・ 不合格の6名は5倍のスピードです。

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年6月20日 13:30~17:30 12号館501製図室
- ・ 即日設計の準備をすること

## 吉松研究室 第14回議事録

日時 : 2011年6月13日 月曜日 13:30~19:00  
場所 : 12号館501製図室/デッサン室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 曾根田 田口 細金(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : 本間

### ゼミ内容

□ B4 第2回即日設計

### □ 「市街地再活性化のためのインフォメーションセンター」

課題の要点

- ・ 道路の幅や周辺の建築の高さから交通量の多い都心が敷地ということ。
- ・ 水面の3mの段差は大きいので気を付ける。
- ・ 15mの木を使ったオープンスペースの提案。
- ・ 活性化のためのプログラムの設定。

#### ■ 増田 / 「水都再成 船頭のいる風景」

- > 船着き場の提案で川との関係性を意識して雰囲気もよい。十字型の建築がオープンスペースを4つに分断しているため各スペースが建築によっていくつもの繋がりが生まれる設計であるとよかった。

#### ■ 熊谷 / 「おき石をたどって 日本の庭体験」

- > 日本の庭をテーマにしたオープンスペースはよいが建築と川との関係性が薄い。駐車場が大きすぎる。課題を読み解けているがうまく設計までいけていない。

#### ■ 金子 / 「川とふれあう街の広場」

- > L字の建築を敷地の隅に建てオープンスペースを確保するアイデアはよいが庇がなく蹴上げのスケールがおかしい。建築は敷地境界線からセットバックして立てる。建築力が足りていない。

#### ■ 古水 / 「自分スペース発見場所」

- > 建築の構成、川に対してデッキを提案しているのは良いがサイズが大きすぎる。建築に庇が必要。オープンスペースの提案が足りていない。

#### ■ 池田 / 「森のような空間」

- > 建築だけでなく橋から川にかけてのデザインをすることはよいが敷地内に複数の木を植え大屋根をかける提案は課題にかみ合っていない。建築は敷地境界線からセットバックして立てる。

#### ■ 矢板 / 「自然を感じるデッキ」

- > 建築を隣のビル側に開いたり、歩道に設計することはありえない。設定された敷地を造成して川にデッキを提案することは無理がある。

#### ■ 柴 / 「木陰のおちる縁側」

- > 縁側によって川との繋がりを考えているのは良いが建築の大きさ、置き方が悪いと良好なオープンスペースが確保できていない。パースが正しくない。

#### ■ 増井 / 「川の上のふれあいステージ」

- > 川にデッキをかけステージとするならば建築の中身、オープンスペースの提案も工夫すること。提案可能な歩道なども積極的にデザインすること。

#### ■ 倉地 / 「川に集まる」

- > 建築の周りに提案した水辺が川と関係していないのはもったいない。もっと周辺環境を意識して設計する。建築は敷地境界線からセットバックして立てる。

#### ■ 川福 / 「街の発信源」

- > 即日設計は時間が少ないのでもっとシンプル形で考えること。建築が複雑な形をしているために敷地に無駄な部分が生まれてしまっている。オープンスペースの提案も考えること。

#### ■ 内田 / 「つなぐ大屋根」

- > 川にデッキをかけステージとするならば建築の中身、オープンスペースも工夫すること。ただ大屋根をかけるだけでは提案にならない。

#### ■ 増澤 / 「縁側体験」

- > オープンスペース、川に対する提案がされていない。ただ縁側を敷地いっぱい広げるのではなく周辺環境を読み取り構成を考えること。

□総評

---

- ・ 周辺から考え外側を絞ってから建築を考えなければならない。
- ・ 即日設計は時間が少ないので複雑な提案はしないこと。
- ・ プログラムの提案が欲しい。
- ・ 提案が受け取れないものが多い。

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年6月16日 15:00～(予定) 山田記念室
- ・ デザインリサーチ中間発表

# 吉松研究室 第13回議事録

日時 : 2011年6月9日 木曜日 15:00~16:50  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 上村 佐長  
: M1 加藤 細金 曾根田 田口(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 増井 増田 増澤 矢板 本間  
欠席 : 大塚

## ゼミ内容

B4 デザインリサーチ中間発表

## デザインリサーチ発表

### ■矢板 / 「迷うことによる偶然の発見」

- ・ 明空間と暗空間の雰囲気の違いに興味を持ち、明暗の中間領域を分析した。
- > 空気感の違いとは何で、空気感とは計れるものなのか。頑張っているが自分よがりである。人に伝わらないプレゼンは不要である。

### ■池田 / 「雨のような建築」

- ・ 雨がものに当たることで雨の様々な表情を伺えることから、雨のような建築は外部からの影響を受ける希薄な建築であると考えた。
- > 希薄な建築とは何なのか。ガラスの建築と柱のみで構成した建築のことなのか。全く進んでいない。ゴールイメージをもつこと。

### ■柴 / 「ずれ 雁行形の魅力」

- ・ 二条城の雁行を元に日本と西洋の違いを分析し、モデルの作成をした。
- > 今回持ってきた物は模型と呼べるのか。雁行型がなぜ優れているのか考えなければイメージの話で終わってしまう。

### ■金子 / 「透き通る空間—不透明な透明性—」

- ・ 妹島さんの鬼石多目的ホールの分析から空間の透明性に着目した。実と虚の透明性、不透明性の4パターンのモデルを作り分析した。
- > 虚の不透明性とは透明ではないのか。透明の定義が曖昧で虚の不透明性が自分の中で整理がついていない。

### ■増井 / 「隠蔽による空間体験」

- ・ 小説や伏線を例にあげて隠蔽を分析しモデルの作成を行った。
- > 隠蔽とは用は隠すではないのか。重要なのはどうやって隠すかで議論できない模型は不要である。何を求めるために作ったのか。

### ■本間 / 「現代のゆるい—私の好きなゆるいもの—」

- ・ ゆるキャラとゆるキャラでない物を比較し分析したものからモデルを作成した。
- > イメージでしかなく何もわからない。空間におけるゆるい空間とは多摩美だけなのか。ゆるいとは何かについての説明が一つもない。緊張感のある建築を作れるのであればゆるい建築も作れるはずである。

## 総評

- ・ 中間発表は全滅に近い。
- ・ 三年生の課題をしていた時の方がまだやる気があったように思える。
- ・ 言葉で説明できない、議論ができないのであればモデルで表現する。
- ・ 池田、本間、内田、増澤、川福、古水は来週再中間発表をする。

## グループ編成

A 班: 上村 本間・池田・増田  
B 班: 曾根田・細金 川福・内田・古水  
C 班: 佐長・田口 増井・倉地・金子  
D 班: 大塚・加藤 矢板・柴・熊谷・増澤

## 次回ゼミ

- ・ 2011年5月26日 15:00~(予定) デッサン室
- ・ B4 デザインリサーチ発表



## 吉松研究室 第12回議事録

日時 : 2011年6月6日 月曜日 13:30~19:00  
場所 : 12号館501製図室、デッサン室  
出席 : M2 上村 佐長  
: M1 曾根田 田口 細金 加藤 (記)  
: B4 池田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : M2 大塚 B4 本間 内田 古水

---

### ゼミ内容

B4 即日設計

---

### 即日設計

---

#### ■川福 / 「回遊する学舎」

> 分棟にしても成立させるディフェンスが必要。分棟を繋ぐデッキがあって、木を避けるように配置されていれば良かった。

#### ■増田 / 「森に触れる学校」

> 先週の案のほうが良い。採光が不十分、アプローチが悪い。このような敷地で2階からさらに屋上へ上がる意味が無い。

#### ■池田 / 「公園のような宿泊所」

> 建築が森林の中で大きすぎるため邪魔になっている。居室への採光も不十分であり過ごしやすい空間とは言えない。

#### ■熊谷 / 「自然に囲まれる人間、自然を囲う建築」

> コンパクトなボリュームで、尚且つ木を避けている点が評価できる。食堂、風呂、宿泊からの景色も良い。2Fも緑がたくさんあり気持ちがいい。

#### ■矢板 / 「みんなで見上げる場所」

> 巨大なボリューム場所にそぐはない、もっと小さいボリュームとすること。スケール音痴とならないようにする。

#### ■増井 / 「みんなで……」

> 居室とエントランスの間にある無駄なスペースが非常に大きい、わざわざ廊下を作るのなら中庭の空間と関係性があるなどの、何か提案があると良い。

#### ■金子 / 「森の学ぶ道」

> 分棟を庇でつないでいるのは良い、庇の下にデッキを設ければ尚良い。建築全体を地面から少し離す必要がある。

#### ■柴 / 「森に繋がる路地」

> ボリュームの大きさが敷地に対して相応しくない。森と触れ合えるような配置計画や遊歩道などを提案すると良い。

#### ■倉地 / 「体験と教育と一緒にできる多目的な広場」

> 建築により道路と森を分ける配置は考えられているが、あまりにもボリュームが大きすぎる。遊歩道も行き帰り同じ道を通ることになるのは面白くない。

#### ■増澤 / 「デッキ広場」

> 屋根がどこまでかわからないが、ボリュームが巨大すぎる。ただ、木を囲むようになっている計画はよい。

□総評

---

- ・ 地面は湿気が多いので GL から少し浮かす。
- ・ 配置図を描かないのはない。
- ・ 自然の中に作る場合自然の邪魔をしない。
- ・ フラットルーフが多い、採光に気をつける。
- ・ 一回やってダメならもう一度やり直す。そうしないとうまくならない。

□次回ゼミ

---

- > 2011年6月9日 15:00～ 山田記念室
- > DR 中間発表の準備をすること
- > 修士テーマ発表

日時 : 2011年6月2日 木曜日 15:30~17:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 上村 佐長  
: M1 加藤 曾根田 田口 細金  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : 大塚

---

## ゼミ内容

B4 デザインリサーチ中間前パネル提出

---

## デザインリサーチ発表

---

### ■内田 / 「霞」

> オリジナリティを感じない。言葉が違うのは大きなことだが、これまでの人が試したことのない中間領域を目指すべき。

### ■増井 / 「隠蔽による想像体験」

> いい方向に向かっていると思う。だがオリジナリティを感じない。倉地とどこが違うのか。テーマは同じようなことでもいいが、他の人がやっていないことを試してみる。

### ■金子 / 「透き通る空間 不透明な透明性」

> いい方向に向かっていると思う。金子のはまだ全然本人も理解しきれていないと思うが、みんなから面白いと評価を受けているところが大事。とりあえずでもシュートを打ったことは褒めていいところ。

### ■熊谷 / 「素の建築」

> 自分の身体性から考えているので、人に伝わりづらい。だが、熊谷にしかわからないものなんだけれど、説明を聞けばなんとなく伝わるってことが大事。熊谷のは人間工学・計画学の分野に入ってくるかもしれない。そのためには人間についてもものすごく詳しくなければならぬかもしれない。そういうアプローチもある。

### ■池田 / 「雨のような建築」

> 詩的な建築と言われるように、あまりにも私的なため人に伝えることがとても大事。同じ方向だけでなく、いろんな方法で人に伝えるように試してみる。

### ■倉地 / 「過渡のある空間 連続性と予測外が反復する」

> 倉地のはただの後追いのようにみえ、倉地らしさが感じられない。増井と何が違うのか。都市の中にシークエンスを見つけるのは難しい。舞台など計画されてシークエンスを勉強するとい。しかし、もしかしたら「シークエンス」によって倉地の目指していた本質がぼやけてしまっているのかもしれない。

### ■矢板 / 「空間同士の温度差」

> 矢板は自分が何をやっているのかわかっていない。何がしたいのか、どういうところに問題を感じているのかを整理し、みつめ直すこと。今言っていることは後追いでしかなく、何十年前から研究されている。勉強が足りていない。

### ■増澤 / 「つながる境界」

> これもただのお勉強でしかない。抽象概念を抽象的に追いかけようとしても無理がある。知識が足りていない。本当にこのモデルの空間は気持ちいいのか。なんとなくでやっていると進まない。

### ■柴 / 「ずれ 雁行型の魅力」

> 柴も知識が足りていない。雁行形はヨーロッパにもある。けれどそれは雁行形とは呼ばれていない。どうして日本では雁行形が求められたのか。ヨーロッパでは何を求めてあの形にしたのかなどを建築的な知識に基づいて考える。それがわかった上ではじめて柴が思う雁行形の魅力がいえるようになる。

■川福 / 「屋根」

---

- > 川福は真面目にやっているが、いつまでたっても勉強をしない。屋根については多くの建築家があるものすごく考えているのになぜそれを読まないのか。屋根がすごく魅力的なものなのだったら、勉強することも楽しいはず。

■古水 / 「音楽可視化空間」

---

- > 論理的でないし、古水が考えたことによって何も生まれていない。「似てるといわれた。やっぱり似ている」では全く意味がない。音楽はさんざんやられているテーマなのだから、古水らしい興味を持つべきである。

■本間 / 「現代のゆるい」

---

- > テーマは悪くないのにあまりに進まない。ベンチューリのテーマは「緊張」である。先輩にも緊張をテーマにしている人がいる。ゴールはいい建築をつくることであってコンセプトなんてどうでもいい。人に伝わる、受け取れるように話をする。

■増田 / 「素の建築」

---

- > ローゼのプリミティブハットを見つけてきたことはいいが、増田もあまりにすすんでいないと思う。素の建築を求めている伊東さん、内藤廣さんはなぜ今ガッツリとしたものを作っているのかを考えてみる。彼らは何に対して「素」と感じているのか知り、自分の興味を明確にしていくこと。

□総評

---

- ・ 中間発表で一番大切なのは問題意識。自分の興味を論理的にどこまで追いかけていけるか。
- ・ 建築の知識に根ざした疑問というところが大事。
- ・ 具体的な方向性、ゴールを考える。
- ・ 具象化、抽象化、具象化を繰り返すこと。
- ・ 重要なのはディフェンスをかためることと、ほんの少しゴールが見えていること。
- ・ 少しずつでいいので、毎週確実に前に進むこと。
- ・ そのためには違うアプローチが必ず必要。AもBも両方進めることで互いに高め合っていく。
- ・ 「柴・倉地・増井」「増田・本間・熊谷」「川福・増澤・金子・内田・矢板」「池田・古水」は興味の方が近いと感じるので、お互いに意見を言い合うようにしてみる。

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年6月6日 13:30~17:30 12号館501製図室
- ・ 即日設計の準備をすること

# 吉松研究室 第10回議事録

日時 : 2011年5月26日 木曜日 15:30~21:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 曾根田 田口 細金(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

## ゼミ内容

□ B4 デザインリサーチ発表

## □デザインリサーチ発表

### ■川福 / 「屋根の形」

- ・ 勾配屋根の街並みは自然環境によって造られた山の起伏を連想させる。屋根の重なり方によって視線空間の広がりが増えたと考えモデルを作成した。屋根を用いることで山のような非日常的な建築を目指す。
- ・ ゴールイメージ：公共建築 住宅
- > 「山のような」や「山は非日常」はただのイメージにすぎない。テーマは人の受け売りではなく自分で探すものである。この調子ではどんなテーマでも切り開けない。進まないのなら実際の建築を見て興味を探ること。

### ■古水 / 「音楽を空間にする」

- ・ ダニエル・リベスキンドの言う音楽と建築の共通点に着目し音楽用語を建築に置き換えた。シューベルトの軍隊行進曲を空間化することで聴覚障害のある方でも五感で体験できるのではないかと考えた。
- ・ ゴールイメージ：公共建築
- > サウンドスケープという学問もすでにあり方向性としてはつらい。音響の知識を始め音を視覚化するアーティストや建築家などをたくさん調べ、学ぶこと。クラシックではなく自分が本当に好きなロックをテーマにしたほうがいいのではないかと考えた。

### ■内田 / 「境界の密度と可視化」

- ・ 漫画のコマ割りや透視図は境界の密度が異なり、後者には中間領域が発生すると考えた。KAIT 工房は無数の柱が霞のような役割を果たし様々な密度がある。密度を可視化することで、自在に境界を操ることが出来るのではないかと考えた。
- ・ ゴールイメージ：幼稚園、小学校 高層建築
- > 曖昧とは線が引けないものであるから可視化することは自己矛盾を起こしている。密度は度合いなので分母と分子が必要。理解していない言葉を使わないこと。真面目にやっているとは思いますが抽象論ではなく自問自答を繰り返し説明ができるようにすること。

### ■池田 / 「雨との共生」

- ・ 雨の一番の魅力は五感で感じられることである。建築に雨を取り込むことで片利共生することができるかと考えた。屋根に密度の異なる開口を開け、雨と共生するカフェを設計した。
- ・ ゴールイメージ：教育施設 教会
- > 穴が開いた瞬間に屋根でもなく室内でもない。「自然とともに生きる建築」が本当にやりたいことなのか。今回の内容では共生という言葉も使う理由がないし抽象論では進まないとい度も言いたはず。具体的なレファレンスを挙げ進めること。

### ■本間 / 「日本建築の緊張感とは？」

- ・ 茶室、教会、日本家屋など緊張感のある空間は何度訪れてもはっとする。待庵(千利休)では空間の極端な大きさ、躰口をくぐる非日常的な体験、単純な室内がはっとさせているのではないかと考えた。ゆるいは待庵の逆、平凡、日常、複雑が関係すると考える。
- ・ ゴールイメージ：集合住宅
- > 漠然としすぎています。提案や疑問を形にゼミ旅行で見学した建築の中で緊張感のあるものはなかったのか。緊張感からゆるいを探ることは良いが躰口など実体験のない空間をレファレンスに挙げて発表しても意味がない。

### ■倉地 / 「間違いの起こる街路とは」

- ・ 路地の形態によって先に予想した景色と実際の景色に間違いが起きると考えた。渋谷の高低差、屈曲した街路は間違いが起きやすく、銀座のようにグリッドの街路では間違いは起きにくい。
- ・ ゴールイメージ：多層の公共建築
- > 景色を「間違える」の主語、目的語は何か。ここでいう間違いは何を間違っているのかイメージだけでは伝えられない。どちらかというと予想を「裏切る」方ではないか。今回の内容はシークエンスがあまり関係ないように感じた。

■金子 / 「不透明の「透明性」」

- ・ SANAA の建築は透明なガラスによって仕切られているので内外が視覚的に曖昧になりやすい。ガラスが重なった場合、透過する素材以外でモデルを作成した。
- ・ ゴールイメージ：交流センター
- > モデルに金子らしさが感じられないし先週と何が変わったのか分からない。作ることは良いが実験の意味があるモデルを作ること。結論ありきのもを作ってもあまり意味がない。透明性や透明感は透明でないもので表現してみる。知識はあるのだからきちんと勉強する。

■増井 / 「奥 深み」

- ・ 立面の中に奥を感じる建物に着目した。奥が見えることで深みが生まれ、先を想像させる。また奥が見にくかったり、隠すことによってより深みが増すと考え、モデルを作成した。
- ・ ゴールイメージ：美術館 図書館
- > 奥の定義がされていないし、奥を隠したらまた奥が生まれるのでは。イメージで話しては先に進まないのだから抽象論は今すぐやめる。奥を感じるものの何がよいのかを考え、意味のあるモデルを作ること。考えていることは10期渡邊に近いので参考にする。

■増澤 / 「内と外とのつながり」

- ・ 縁側、庇の持つ内外の見えない境界に興味を持った。壁で仕切るのではなく上下の関係、層によって境界を作りたい。
- ・ ゴールイメージ：美術館 図書館
- > 縁側、庇空間に興味があることはいいが自分の理想ばかりでは意味がない。見えない境界は世の中に山ほどある。中間領域の利点、不利点を理解し現実との間を埋めることを考える。考えて分からないのなら実際の建築を勉強し自分の考えにリアリティを持たせる。

■柴 / 「ずれ」

- ・ 臨春閣、二条城、桂離宮にみられる雁行形に着目した。雁行形は空間同士の接し方の違いから境界が曖昧になる。入隅、出隅は内外の関係を調整、空間に広がりを与えるとともに見え隠れがうまれる。
- ・ ゴールイメージ：博物館
- > 今回の発表は図面からの印象が強いし実際の体験は全く違ったりする。入隅出隅に興味があるのなら理屈をきちんと挙げ例証を出す。建築の意図を読み解けるように。建築だったら西沢さんがよくやっている。1つ1つの空間よりもつないでいるエントランスや廊下に魅力を感じている人は多くいるので繋ぐということから攻めてもいいかもしれない。

■熊谷 / 「空間のよども場所」

- ・ パーソナルスペースを方丈記の中で使用される「よども」という言葉に置き換える。よどもとは水が流れずにたまっていることを意味するが、人の流れの中にある居場所として定義できるのではないか。
- ・ ゴールイメージ：図書館 公共建築
- > 人が待ち合わせする場所、パーソナルスペースはきっとよどもだ所。階段もそうだがこの「きっかけ」を探すことが面白い点である。ただ壁を立てるのではなく空間をほんの少しだけ歪めただけでできるよどもを作ってみる。ショールームの空間を体験すると良い。話は面白いが進みが悪い。

■矢板 / 「地下での空間体験」

- ・ 地下街は内側から全体像を把握すること、地上と分離していることで感じる空間の広がり魅力である。地下空間と地上の関係から都市を内側からとらえることができるのではないか。地下空間の複雑さを用いてモデルを作成した。
- ・ ゴールイメージ：美術館
- > 地下の外形なんて想像しない。都市の外形が書けないのと同じで地上と地下は概念上の違いだけ。矢板の持つ地下の概念とは何なのか自分を疑わなければ先に進まない。発表を聞いた限りでは垂直方向の中間領域ではないだろうか。それならば可能性はあるが難しい。地下を1回外して考える。

■増田 / 「素と廃墟」

- ・ 利便性、快適性といった、建築が本来備えるべき機能的性質、失われている廃墟は素の状態に近いのでは。素の建築とは内部の人の活動によって価値が見出されるのではなく、建築の存在そのものに価値がある状態と言えるのではないか。
- ・ ゴールイメージ：SOHO ものづくり支援施設
- > 素や素形をテーマにしている建築家の真似になってしまうのならテーマにならない。屋根をかけることが建築の素という考えから進めることもできるのでは。増田のしっかりとした素の定義が欲しい。

□総評

---

- ・ アイディアは降ってくるものではなく降らせるもの。
- ・ 写真は写真でしかないのだから図面やダイアグラムに置き換えて考える。
- ・ どんなことに疑問があってどうやって解決しようとするかはっきりすること。
- ・ 自問自答する能力を身につける。
- ・ イメージ、抽象論はしない。
- ・ テーマは一度否定していないのになぜ踏み込まないのか。
- ・ 来週は PP 不要 A1 パネル提出。

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年5月30日 13:00～ 12号館501製図室
- ・ 即日設計

## 吉松研究室 第9回議事録

日時 : 2011年5月19日 木曜日 15:00~21:00  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 細金 曾根田 田口(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : 本間

### ゼミ内容

- B4 デザインリサーチ発表
- スカーフデザイン発表
- M1,2 ゼミ旅行建築発表

### □デザインリサーチ発表

- 倉地 / 「空間を構成する要素から考えたシークエンスの分かりやすさ, 想定外を連続させるためのシークエンスの必要性」
- ・ シークエンスは空間が異なる構成要素を持っていることが必要である。空間の構成要素を操作することで、シークエンスをどれだけ感じられるのか考えた。
  - > 進んでいない。コンパクトに話せないのは理解していない証拠である。説明文を短くする。
- 矢板 / 「迷うことによる偶然の発見」
- ・ 迷うということは新たな発見につながり、負の要素ではないと考え、偶然の発見、印象的な経験を元に頭の中で町を描けるのではないか。
  - > 迷いたいのであれば迷路を作ればよい。人間は学習する。建築的な興味につながるのだろうか。「迷うこと」がやりたいことではないはず、都市でどのように認識しているか。
- 池田 / 「雨の中で感じた默想的空間」
- ・ 雨には心理的な壁を作り出していると仮定し、動が作りだす静の空間から建築を作れるのではないかと考えた。
  - > 前回も言ったが進んでいない。雨の話はわかったので、建築的な話しをしてほしい。
- 川福 / 「屋根並み」
- ・ 長野県奈良井宿を調査し屋根の形状によって、どのような印象を受けるのかをダイアグラムを用いて説明した。
  - > これは調査したといえるのだろうか。本当にやりたいことであれば隈無く調べること。
- 古水 / 「音を視覚化する」
- ・ 建築と音楽というのは、密接に関係していると考え、シューベルトの楽譜を元に説明した。
  - > まじめにやっているか疑問。音楽を調べるだけでもやることはたくさんある。建築家でも音楽と結びつけている人はたくさんいる。本当に興味があるのならしっかり調べてくること。
- 柴 / 「ずれ」
- ・ 二条城の雁行する内部空間のズレから奥を感じ、奥が空間の広がり、序列をつけているのではないかと考えた。
  - > 自分の写真なのか。体験したものでないと説得力がない。
- 熊谷 / 「“ 囲う ” 安心感」
- ・ モノや段差によって小さな空間でも安心感が得られる「居場所」空間がある。「囲う」がある住宅のレファレンスから分析した。
  - > 進んでいない、だいぶ足踏みした。もっと微妙な段差で勝負するべきである。囲うという言葉が正しいのだろうか。自分の空間をもう一段階置き換えられるといい。
- 内田 / 「霞モデル化」
- ・ すやり霞の「分かれているけど、繋がってもある」状態を目指す。壁を分解し、屋根の勾配と揺らぎを用いて、モデルを作成した。
  - > なぜゆらぎに着目したのか。モデルを作成することはいいが、柔らかいモノを柔らかいモノで表現しても意味がない。
- 金子 / 「不透明の「透明性」」
- ・ 鬼石多目的ホールをレファレンスに 12 個のモデルを作り、「ガラス」に「開口」を重ねることによって、空間、境界があいまいになると考えた。
  - > 何がやりたいかわからない。透明+開口がいいのか。金子らしさがない。考えてもしかたがないのでは。
- 増井 / 「期待する」
- ・ 見せ方によって期待感が変化すると考え、類似している写真を加工し、気になる、気にならない



- ものの要素を抽出した。
- > 言葉を変えているだけで内容はさほどかわらない。自分の興味をよく考えてみる。

■増田 / 「空虚のかたち」

---

- ・ 吉祥寺ハモニカ横町とはるひ野を調査し、街の性格を作る「生活の滲み」について比較した。
- > 本当の自分の興味をやりたいことを見つけること。自分のやりたいことをしっかり伝えることが大事。

■増澤 / 「縁 ～日本人の忘れかけているもの～」

---

- ・ 内でも外でもない、境界がはっきりしない場である縁側に魅力もった。内部にいながらいかに外部を感じる事ができるか、外部でありながらいかに内部を感じる事ができるかを探った。
- > これが増澤のフルパワーなのか。建築や都市で自分の好きな空間を探し、なぜいいのかを分析する。考えていること整理することを覚える。

□総評

---

- ・ 頭でなく感じるために街に行くこと。自分の感覚で空間に興味を持つ。
- ・ どんなことでもいいが、ゴールは建築でなければならない。
- ・ 知識がないことは責めない。勉強すればいい。
- ・ 自分の意見と同じ人、違う人はどうしてそう思うのかを分析する。
- ・ 週に1つでいいからキーワードを探してくることで前に進んでいく。
- ・ 事例探しが下手である。過去の卒業設計や論文を読み、意図を知ること。

□グループ編成

---

- A 班：上村                      本間・池田・増田
- B 班：曾根田・細金      川福・内田・古水
- C 班：佐長・田口          増井・倉地・金子
- D 班：大塚・加藤          矢板・柴・熊谷・増澤

□スカーフデザインについて

---

- ・ 明度、彩度の差がない方がいい。
- ・ 同系色のものの方がまとまりがよい。
- ・ デザインに方向性がない方がいい。
- ・ 写真は著作権に関わるのでぼかしたり加工すること。

□ゼミ旅行について

---

- ・ 8:30 に新宿工学院大学前集合。
- ・ 建築を説明するときにはもっと技術的な説明をすること。何でできていてどう成立しているのかを院生らしく説明する。
- ・ 連絡は余裕を持って事前に連絡すること。

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年5月26日 15:00～(予定) 山田記念室
- ・ B4 デザインリサーチ発表

## 吉松研究室 第8回議事録

日時 : 2011年5月16日 月曜日 13:30~20:00  
場所 : 12号館501製図室、準備室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 曾根田 田口 細金 加藤(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

- B4 即日設計
- B4 ゼミ旅行見学先の発表
- M2 富岡駅コンペ

### 即日設計

#### ■上村 / 「大きな屋根の小さな居場所」

> 案は良いがプレゼンが良くない。パース、文字、図面は遠くから見てもわかるように書く。道路からの引き込みがあれば尚よかった。実際にはこの屋根は機能しづらい。

#### ■川福 / 「同じ庇で」

> 大きな庇でシンプルに空間をつないでいるのは良い。唯一庇のデザインもしてある。構造的にはコアだけで十分なので柱は必要ない。トイレの数が多い。

#### ■増田 / 「まちのえき」

> トイレの量が多く地下鉄の出入口を圧迫している、パースにも狂いがあるが屋根や庇の上に昇るような案は良い。

#### ■池田 / 「ちいさな待ち合わせ場所」

> トイレ、交番の配置はよい。屋根をもっと大きくかけて庇下の空間を作るとよい。パースのアンクルがあまりよくない。

#### ■熊谷 / 「屋根の下で待ち合わせ」

> トイレと交番を一まとめにする案は素直で良いがもう少しコンパクトであればよかった。パース、スケールが間違っている。

#### ■矢板 / 「街の待ち合わせ場所」

> 分散して配置してしまうことで動線、周辺の店舗を圧迫してしまっている。トイレの数が多い。パースは努力が伝わってきてよい。

#### ■古水 / 「ながれる場所」

> トイレの場所が動線、店舗の邪魔をしてしまっている。パースは古水らしさがあり、がんばってはいるが一番伝えたいところが描けていない。

#### ■内田 / 「廊下のある交番」

> トイレの数が多い、交番の待機室はセキュリティが必要である。庇下の空間が設計されているので、そこがどのように使われるかプレゼンテーションして欲しい。

#### ■本間 / 「待ち合わせ交番」

> 屋根をかけて一体とするならばもっと建築面積をコンパクトに押さえたほうがよい。トイレの位置が動線の邪魔になってしまっている。

#### ■増井 / 「都市の小さな広場」

> 分散されたトイレが動線、店舗の邪魔になってしまっている。分散案は誰でもできることなので気を付けたほうがよい。パースをはじめ全体の構成の雰囲気は良い。

#### ■金子 / 「大きな屋根小さな庭」

> トイレを分散させる理由が明確でない。歩道に分散して配置することで動線の邪魔をしてしまっている。パースの練習をすること。

■柴 / 「流れる空間」

---

> 分散型のメリットがなく店舗の脇にトイレを置くことはあまりよくない。トイレの数が多い。平面で斜めのデザインをしているが敷地に上手くフィットしていない。

■倉地 / 「便利な交差点」

---

> 地下鉄の出入口の向きが逆になってしまっている。時間の使い方ができていないので、規定の時間に間に合うようにする。タイトルは良く考えて付ける。

■増澤 / 「つながる」

---

> 絵は描けるはずだが案や時間の使い方が不器用、30分で案を決めること。自分がパースを描ききるまでに何分間かかるか知っておくことが必要。

□総評

---

- ・ パースを描くときは頭の中でどのような構図にするか考えてから描く。
- ・ 庇の提案が必要。
- ・ 公的な建築をどのように考えているかが問われている。
- ・ 動線を邪魔している配置計画は相応しくない。
- ・ タイトルからコンセプトが伝わらないものが多い。

□ゼミ旅行見学先の発表

---

■増田 / 「えんぱーく塩尻市市民交流センター」

---

- ・ 設計は柳澤潤コンテンポラリーズ。
- ・ 97本の壁柱、プレキャストコンクリート+鉄板、本棚やポスターなどをマグネットで脱着可能。
- ・ 子育て支援センター、図書、ICTパソコンレクチャー室、多目的ホール、食育室、会議室。
- ・ 4つのコート。公園のような建築。

■内田 / 「まつもと市民芸術館」

---

- ・ 設計は伊東豊雄建築設計事務所。
- ・ 客席と舞台を敷地に合わせて配置を反転させた。そのことで長い距離となったシアターパークからホワイエ、客席までの間にシークエンスを演出した。
- ・ 事務所から舞台までの距離が短い。楽屋を広々使えるようにした。

■増井 / 「安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター」

---

- ・ 設計は隈研吾建築都市設計事務所。
- ・ 細長いボリュームを配置した。
- ・ 縦ハゼと3種類のグレーの金属板を使い深い森に溶け込む、迷彩のような効果を持つ建築。
- ・ 小梁をあえて見せることで即物的な印象を与えた。

■金子 / 「ハラミュージアムアーク」

---

- ・ 設計は磯崎新アトリエ。
- ・ 東京都品川区ハラミュージアムの別館。
- ・ 2008年観海庵を増築した。九の間の空間が作られている。
- ・ 増築前はシンメトリーの構成。

□富岡駅コンペ

---

- > 記憶のあるうちに野帳を書く。
- > 地道に下調べを重ねていき提案へとつなげる。
- > 街の写真が必要。意図のある写真を撮る。何が必要か考える。

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年5月12日 15:00～ 山田記念室
- ・ DRの準備をすること
- ・ ゼミ旅行見学先の発表（院生）

## 吉松研究室 第7回議事録

日時 : 2011年05月12日 木曜日 15:00~21:30  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 田口 細金 曾根田(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

- B4 スカーフについて
- B4 デザインリサーチ発表

### スカーフについて

- ・シルクの透明感や質感を生かす
- ・「ジャズ」「横浜」というコンセプトをよく考えたデザインにする
- ・必ず複数案持ってくる

### デザインリサーチ発表

#### ■池田 / 「雨を感じる」

- ・日本には雨を感じる場所がたくさんある。雨を感じることで日本家屋は深い関係があるのではないか。浮世絵のように雨を直線で表現することは日本独特のものであり、隈氏の広重美術館ではその浮世絵に登場する雨を表現していると考えられる。
- > なぜ日本は諸外国よりも雨を感じていると言えるのか。日本より多湿な地域はたくさんあるがその国では雨はどう感じられているのかを考える。雨と建築との関係をどうやって見出すかを言えなければならないが、3週間前から言っていることがあまり変わらない。

#### ■本間 / 「緊張と色」

- ・緊張感のある空間は色によって作り出せるのではないだろうか。ピンクはやわらかい印象を与えらると思う。
- > 本間がやりたいことに色が直結しているとはあまり思えない。色の話は腐るほどあるはずなのに今日の発表内容ではあまりに浅く時間をかけてやっているとは思えなかった。緊張感のある空間をきちんと体験し、ゆるい空間へとつなげていくこと。

#### ■増田 / 「素」

- ・「素」の建築とは全体を構成する要素が少なく、空間を変化させる余裕がある。雑多な変化を許容しながらも変わらない芯を持ち続ける建築はつくれないだろうか。
- > 宝珠院と広重美術館の要素がそんなに違うようにはみえない。それぞれの要素とは一体なんなのか。逃げずにしっかりと言語化していくこと。イメージだけでは進まない。

#### ■矢板 / 「迷うということ」

- ・ケビン・リンチの都市のイメージの要素を踏まえて調査したところ原宿は迷いにくく、渋谷は迷いやすいと判断した。意図的に迷いを生む空間を探していきたい。
- > なぜ迷わなければならないのか。矢板はどんな空間をゴールとして目指しているのか。周辺環境が関係していないところで位置が把握できないことが地下の魅力だったはず。地下で思った魅力ことを再度確認する。都市のイメージは誰でも同じ結果が出るわけではない。結論ありきに意味はないし論点もゼロである。

#### ■柴 / 「時間のずれ」

- ・時間を経ることによって生まれる現実と認識のずれに魅力を感じた。根津美術館のエントランスは表参道・青山間にある賑やかさと静けさのずれをつないでいると考え、魅力を感じた。
- > 柴の感覚でしかなく、聞いている人には何も伝わっていない。何と何がずれているのかを示し、論理的に組み立て伝えること。もっと建築の勉強をし、ずれのどこに魅力を感じたのかを説明する。

#### ■増澤 / 「縁 -つながり-

- ・茅野市民館はガラス張りにすることで外との境界を曖昧にし、八ヶ岳美術館は展示物によって内外をつないでいる。日本家屋の縁のように境界がはっきりしない空間に魅力を感じた。
- > 写真は意図を持ったものでなければ意味が無い。何が言いたかったのか何もわからない。ガラス張りや外に展示物を置く美術館なんてごまんとある。日本家屋に興味があるならば表面をなぞるのでなくきちんと勉強をすること。

■熊谷 / 「みんなにとっての「居場所」とは」

- ・都市のような密集した場所ではパーソナルスペースが小さくなりがちになる。モノで囲うことによって安心感を与え、パーソナルスペースを広げられる開放的な空間をつくることができるのではないだろうか。
- > どこにゴールがあると思うのだろうか。先週までは壁がなくてもパーソナルスペースが広がると言っており、そこが面白いと思った。それと今週の発表は矛盾しているのではないか。微細な寸法の違いでうまれる差異をおさえること。

■倉地 / 「シークエンスについて」

- ・シークエンスがあるとは、主体の視界を場面ごとに切り取ったときに、共通するアイストップが存在することで自分の位置関係を把握させることができるということではないだろうか。
- > 動くことのないすべての建築はシークエンシャルではないということになる。歩かないとシークエンスは生まれないのか。シークエンスにアイストップは関係ないのではないかと思う。けれど自分の考えをきちんと絵にできたことはとても良い。

■金子 / 「境界の認識」

- ・鬼石のようなガラスの曲面は空間をあいまいにし、内と外を近づける。1枚のガラス板だけでなく重なりや透過性のないものでもあいまいにすることは可能なのか検証したい。
- > あいまいな空間はたくさんあるし、よく見るテーマ。鬼石がどのような意図を持って建てられているのか、それに対する建築家や評論家の意見を勉強し、その上でよりよい新しい物をつくり出していかなければならない。人まねに意味は無い。鬼石が最上ならば金子が設計する必要はもうないだろう。

■増井 / 「不意」

- ・予想外な出来事は感情を揺さぶることができるのではないか。都市の不意とは自分の想定外の出来事が起こることであり、正方形の四隅にある柱を抜いた不意モデルから感情を揺さぶる不意をつくり出す。
- > 不意打ちとは予想外のこと。これではマッチポンプである。僕はこう思いますでは何も議論にならない。何が心地いいと思ったのかを説明する。感情を揺さぶらない不意は存在するのか。

■川福 / 「屋根、一体感」

- ・屋根はその下にいるすべての人に一体感を与える。国際フォーラムのように象徴的ですがすべてを覆う屋根は、屋根下にいることによって互いの位置関係や大きさを測れ、魅力的に感じる。
- > 川福のいう屋根とはどんなものなのか。半(全)外部空間の軒下がいいのか。フラットルーフはダメな屋根だとなぜ思うのか。屋根が見えたらなぜいい屋根なのか。ただのイメージでしかなく、まったくわからない。

■古水 / 「人の感覚と色」

- ・街の印象を看板の色が変えているのではないかと考える。下北沢の看板には赤などの暖色系が多く使われているが、吉祥寺では緑色系の看板が目についた。
- > 色は古水のやりたいことなのか。先週のライブハウスをやりたいならそれでもいいが、それも趣味というだけで建築的興味がそんなにあるようには思えない。ライブハウスでもいいがどんなものがほしいと思うのか。

■内田 / 「霞と暖簾」

- ・霞は霧などとは異なり気象学用語ではなく文学表現のひとつであり、英語では mist が近いと思う。あいまいな境界、不確かな存在であるが、絵巻物に登場するすり霞は犬島の島キッチンや暖簾のように空間を仕切る役割を持っている。それらをモデル化することで霞を分析したい。
- > よくあるテーマだが自分なりの切り口を持っているし、言葉の定義も含めアプローチとしては一番良い。どのようにすれば絵のような霞の模型ができるのかよく考え、試作してみることに。

□総評

- ・ほぼ全員ゴールが見えない。
- ・考えていることをイメージや感覚で終わらせるのではなく、勉強する。大学生なら本を読む。
- ・抽象論で話を進めていくことは無理だともう気づいてほしい。
- ・自分で考えた絵を描くこと。自分なりに分析する。
- ・自分を疑うこと。一ヶ月やって駄目だったのならやり方を変えなければならない。
- ・武器、持ち味を使う。
- ・次回からは前半は不要。論点から話し始めること。

□次回ゼミ

- ・2011年5月16日 13:30~17:30 12号館501 製図室
- ・即日設計の準備をすること

## 吉松研究室 第6回議事録

日時 : 2011年5月9日 月曜日 13:30~20:30  
場所 : 12号館501製図室/デッサン室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 曾根田 田口 細金(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

□ B4 第2回即日設計 第3回即日設計

### □ 「小さなコンサートが開けるスタジオ付き住居」

課題の要点

- ・十分な遮音性能の確保
- ・スタジオ、住居、ゲストルームそれぞれの繋がり方が重要。
- ・ピアノとバイオリンのスタジオを独立させながらも時にはジョイントしなければならないこと。
- ・丘陵地は丘なので必ずしも斜面を使って設計する必要はない。
- ・ピアノは分解して搬入することが出来る。

#### ■増田 / 「タイトルなし」

> 複数のコアによって空間を構成する解き方は方向性としてある。もっとシンプルにとくとよい。パースが未完成なので時間配分に気を付けること。階段の表記が間違っている。

#### ■池田 / 「ひかりと音楽につつまれる家」

> スクウェアで機能を仕切る方向性はあるが練習室より寝室の方が防音性能が良いなど課題に答えられていないのもっとシンプルに解くこと。階段の表記が間違っている。

#### ■熊谷 / 「ステージを囲む」

> 練習室を中心にその他の機能で周りを囲むアイデアはあるが建築として成立していない。寸法、図面表記が間違っている。

#### ■矢板 / 「アットホームな演奏場」

> 居住、練習スペースの配置がシンプルな点は良いが可動式間仕切りに頼ってしまっているため十分な防音が確保できていない。

#### ■柴 / 「ステージのあるいえ」

> アーティストそれぞれに専用の住機能を設定するアイデアはあるがゲストの動線が解けていないし、空間としてあまりよくない。

#### ■上村 / 「となりの家の大きなコンサートホール」

> ネタを持っているのは良いが今回の課題では相応しくない。建築側面の柵、可動式間仕切りでは防音性能を十分に確保できない。

#### ■大塚 / 「丘陵地のスタジオハウス」

> 防音も出ていないしプランもよくない。今回の設計ではワンルーム型の案は相応しくない。机のサイズは1人あたり900mmで計算すればよい。

#### ■増井 / 「まちの音楽スタジオ」

> リビングとスタジオの繋がりには良いが内外が明確になっていない。ガラス張りでは音が外にもれてしまう。パースは雰囲気があって良い。

#### ■倉地 / 「音楽と共に」

> ピアノに直射日光があたってしまうと楽器が痛んでしまう。可動間仕切りでは十分な防音はできない。パースの塗り方が雑なのもっときれいに塗ること。

#### ■川福 / 「音楽のある生活」

> 内部空間が複雑になっているのもっとシンプルに解くこと。寸法、階段表記が間違っている。

#### ■古水 / 「ホールの隠れた家」

> 各空間のサイズが適当でなく、斜面を設定しているが内部空間に反映されていない。練習室の入り口など寸法が間違っている。

#### ■内田 / 「庭のあるホール」

> 地下にスタジオを設定したところは良いが住宅部分との関係が薄れて、また光があまり当たらない空間になってしまう。パースが間違っている。

■金子 / 「眺めるスタジオ」

> 丘陵地の傾斜を使いリビングとスタジオを繋げているのは良いがガラス張りのため日光が楽器を痛めてしまう。寸法が間違っている。

■増澤 / 「音と住む」

> スタジオを斜めで仕切ってしまうため十分なゲストスペースが確保できていない。断面図未完成。図面、パースのレイアウトを考えてから書きはじめること。

□ 「商店街活性化のための施設的设计」

課題の要点

- ・シャッター商店街に対してどのようなプログラムで活性化を図るか。
- ・街路、商店街に対しての建築の座り、開き方。
- ・必ず入れることになっている木をうまく使うこと。

■上村 / 「都市のダイニングキッチン 上村商店街活性化プロジェクト」

> キッチンがメインであるのにパースからキッチンが伝わらない。100㎡の敷地で屋根に穴を開け木を植えてしまうのは窮屈。床の仕上げが不明確。こんなに狭い敷地で1/300で書くことはありえない。誤魔化さずに1/100で書くこと。

■倉地 / 「宣伝 Kitchen」

> 木の下のみり場、開き方は良い。提案がキッチンなのだから普通のサイズではなくみんなで囲める大きなキッチンであればよかった。絵に味があるのだから丁寧に色を塗ればもっといいパースになる。木の周りに展示などの空間があればなお良い。

■矢板 / 「広場に集まる」

> 雰囲気はあるがパースは間違っている。イベントスペースを閉じてしまっては交流がうまくいかない。敷地境界線の上に建築を建てずセットバックすること。

■池田 / 「街角の休憩所」

> 大きい敷地であったら路地を引き込むのは良いがこのサイズでやる必要がないのでピントはずれな案になってしまっている。またアクティビティを生む空間が窮屈になってしまっている。

■川福 / 「癒しの延長」

> 敷地が狭いのに分棟にしたことで無駄な空間が生まれてしまっている。平面図、パースともに書き込みが足りていない。時間配分に気を付けること。

■古水 / 「街の駅カフェ」

> 建築の立ち方は良いがもっと道路に対して開くべき。Caféの空間が奥に置かれてしまい閉鎖的である。

■本間 / 「まちのみり場」

> 建築の立ち方は良いがプログラムであるCaféの空間が生きてくる開き方にするとよい。せっかくの広場に対して閉じてしまっている。

■柴 / 「街のキッチン」

> キッチンのプログラムは良いが提案したギャラリー空間でプロテクトしてしまっている。北側ではなく南の道路側に開くべき。

■熊谷 / 「商店街のなかで育てる」

> 児童保育というプログラムのアイディアは良いが防犯面や敷地の広さの問題のため今回の課題には適していない。

■増井 / 「みんなのリビング」

> パースに雰囲気はある。道路に壁を向けてしまっているので中庭が閉鎖的。今回の課題は会議室、商機能などは必要としていない。

■増田 / 「まちのおまつりひろば」

> イベントスペースなど交流を生む空間を奥においてしまっているのはダメ。斜めでデザインしたことで窮屈になっている。斜めは斜めではないものと組み合わせデザインする。即日設計ではシンプルに解くこと。

■内田 / 「街の木陰」

> 中庭をつくらうとするために外部に閉じてしまいアプローチが狭くなっている。敷地境界線の上に建築を建てずセットバックすること。

■金子 / 「広場へいざなう」

- > どこが開いて、閉じているのかわからない。曲線をつかったことで無駄な空間が生まれてしまっている。今回の課題は曲線である必要がないのでは。即日設計はシンプルに解くこと。

■増澤 / 「タイトルなし」

- > パース未完成、タイトルがなくプログラムも分からない。時間配分をきちんとすること。敷地が狭いので分棟案は窮屈。

□総評

- ・ 4時間中 30分は案、30~40分はパースで残りの時間で図面を書くことを必ず心がける。
- ・ フリーハンドで線を書いた方が速いので定規はなるべく使わない。
- ・ 自分の図面、パースに使う人などの表記方法を身につける。
- ・ 図面のスケールは誤魔化さず大きなスケールで書くこと。
- ・ 読解、スケール感などの技術その次にデザイン。

□次回ゼミ

- ・ 2011年5月12日 15:00~(予定) 山田記念室
- ・ デザインリサーチ発表



## 吉松研究室 第4回議事録

日時 : 2011年4月28日 木曜日 15:00~21:30  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 曾根田 田口 細金 加藤(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

- B4 デザインリサーチ  
ゼミ旅行
- 全体 就職情報

### デザインリサーチ発表

A 班

#### ■池田 / 「雨を感じる」

- ・ 雨を感じるとは雨を意識してみるのではないだろうか。モデルによる検証の結果、雨が立体的に重なって見えることで奥行きを把握しづらく感じさせていることがわかった。
- > 一粒降ってきてもそれは雨なのか。雨を見ることができているのだろうか。実は雨を他の要因で感じているのではないか。建築を感じるのも別のものから感じているのかもしれない。日本建築は雨を楽しむように作られている。立体的なのに奥行きを感じられないのは矛盾してないだろうか。池田がいいと思っている建築とはなんなのか知りたい。頭で考えたことが全てではない。

#### ■本間 / 「緊張感のある空間」

- ・ ゆるいと正反対にあると考える「緊張感のある空間」からゆるいを考えてみる。緊張感のある空間は心理的要因と物理的要因に分けることができる。日本家屋では鴨居・敷居・床の間が緊張感を作り出していると考えられる。
- > 結果、どのようにしたら緊張感のある空間をつくれるのか。建築の究極の美が緊張(テンション)だと思う。緊張感のある空間ができてからゆるい空間ができる。メカニズムを考える事。西欧建築より日本建築の方が空間はゆるいのではないか。しかし、入りづらいと感じる趣はある。

#### ■増田 / 「素~触れたい建築~」

- ・ 普段見ていたのは建築の上辺でしかなく、化粧をする前の建築は正直に見えた。素の状態とは構造とイメージが合致している、質感を伴った形をもつ、変化を受け入れられる状態と考える。素の状態に近い椅子には愛着がわく。化粧を減らしていくことで愛着のわく空間をつくることができないか。
- > 化粧の濃い薄いは建築に例えると何か。建築を素材から考える事は面白いが新しい考えではない。考えを整理して素に対する理想像を示す。

B 班

#### ■川福 / 「屋根との関わり」

- ・ 建築を人に例えると屋根は顔である。屋根は人を包容する空間を作り出し内と外を曖昧につくりだす。
- > スライドの写真などが前回から変わらない。ペースは良いが調べる量が足りていない。調べたことを絵にして持ってくる。屋根を上から見ているのに中間領域の話にいきなりなるのはおかしい。

#### ■古水 / 「演奏を楽しむ場所」

- ・ ライブハウスを体験したことのない人にとってライブハウスはネガティブな場所として認識されている。場所を知らない人が多く、音楽を生で聴く事を忘れてしまっているからではないだろうか。ライブハウスの良さを残したまま誰もが立ち寄りやすい場所には出来ないだろうか。
- > 見つけづらい所にライブハウスがあるのは何故か。アーティストは小さいハコを大事にするからではないか。オーディエンスとの距離が大切である。イメージでなく資料を集めて発表すること。30分もあればウェブで調べられる。

#### ■内田 / 「霞」

- ・ 霞とは空気中に浮かんでいるさまざまな細かい粒子によって構成されている。遠くがはっきり見えない現象である。見えるけど、通れてしまう特性をもつ。すやり霞は遠近感を与え、また場面を転換するために用いた技法で、曖昧な繋がりを示す。KAIT 工房では見えない壁があり霞に似ている。今後は都市の中の霞を探していく。
- > 発表内容は良いので先輩と何が違うか明確にする。本当に自分の感覚に根ざしているのか疑問。KAIT 工房はただ曖昧なだけなのではないか。

C班

■倉地 / 「場面と場面の関係性」

- ・ 渋谷、神楽坂をサーベイし都市の中で場面が切り替わる時、何らかの視界を遮る物が存在している。シーンが連続して切り替わる様からシークエンスを感じた。
- > シークエンスのない建築は多層建築に多い。建築家は空間の関係性を大事にするのでシークエンスが嫌い。連続性があつた上でさらに面白くするために予想外の結果をおく。

■金子 / 「曲線の必要性」

- ・ 自然の中に曲線はなく、曲線の建築は自然に近づこうとしている。アールヌーボーは植物の曲線をもとに生まれた曲線美。曲線の空間は自然に人間にフィットする。
- > 人の動きに興味があるのか。親しみ易いのになぜあまり無いのか考える。どんな曲線が良いのか明確にする。素材によって見え方がだいぶ変わるはず。

■増井 / 「隠蔽による想像」

- ・ 隠すことによって発見を楽しんだり、想像を楽しんだりできる。想像は隠蔽行為によって生まれるもので、予想と予想外の間を常に行き来するところが魅力的だと思った。
- > 情報が多すぎる。スライドは本質が分かっていないと短くできない。隠すと人の感情に幅ができるので面白い。

D班

■柴 / 「ズレ」

- ・ 普段何気なく感じているものでもずらすことによって見えてくるもの、気づくことがある。電車の中吊り広告もズレを用いている。
- > 先週より良いがやはり弱い。違和感がいいのにパッと見てわかるものばかり。もっと気づかないような物が欲しい。街を歩いても進まないかもしれない、まずは建築の勉強をする必要があるのでは。

■熊谷 / 「特等席をみつめる・つくる」

- ・ 外との境をつくる「囲う」。光、物、段差などで囲むことで特等席ができると考える。模型で壁の高さと空間の幅を検証した結果、840,1260,1680mm の高さの壁に囲われると心地良いことが体験できた。
- > 模型はもっと繊細なものが良い。オフィスのパーテーションは良く考えられていて立ったら全体が見え、座ったら見えない。いろいろなスケールの人に合わせたプロポーション、階段の長さなどの微細な計画が必要。けれどいい方向に進んでいる。

■増澤 / 「内と外で感じる隅」

- ・ 角があることで内角は内部のように感じられ、外角は外部のように感じられる。街の中には内角と外角が重なり合い外とも内とも感じられる空間が存在した。
- > 自分の中で好きな建築をなぜ好きなのかしっかり勉強することも重要。今の案を全部捨ててもいいのでしっかりと建築の勉強をして欲しい。

■矢板 / 「想像による地下通路の認識」

- ・ 地下通路は地上と切り離されていることによって特性が生まれる。地下通路の全体像は断片化した情報を頭の中でつなげ、想像的に通路を認識することによって把握できるのではないだろうか。
- > 真面目にやっているが、地下は実はどうでもよくて違うことに興味があるのではないか。少しずつでいいのでしっかりと前に進んで欲しい。

□総評

- ・ 考えを巡らすときには常に自分を疑う。
- ・ 発表をする以上反論を予測しておく。
- ・ 毎週1歩ずつ進めばよいが堂々巡りは最悪。

□ゼミ旅行

- ・ 増澤は4限後に電車と車を使い21時頃に旅館に到着。
- ・ 団体行動なのでイレギュラーなことをする人は自分で調べて報告をすること。

□就職情報

- ・ 5月10日に平塚市の一般職の応募締め切りがある。

□次回ゼミ

- ・ 2011年5月2日 13:30~17:30 12号館501製図室。
- ・ 即日設計の準備をすること。

## 吉松研究室 第4回議事録

日時 : 2011年4月25日 月曜日 13:30~20:30  
場所 : 12号館501製図室/デッサン室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 曾根田 細金 田口(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

- B4 第1回即日設計
- M2 修士テーマ発表

### 「夏の海の家」

課題の要点

- ・ 海を最大限に生かすことが重要。
- ・ 砂の層が浅いので海辺、砂地にも建てることできる。
- ・ セカンドハウスであるため日常から逸脱して良い。
- ・ 1/3の急な斜面。
- ・ 別荘なので複数年くることも想定する。

#### ■曾根田 / 「海に浮かぶ家」

> この中では海を最大限に生かしている。建物の置き方としては良いがエントランスのルーバーを付ける意味はよくわからない。海にせり出したデッキなどがあれば尚良い。パースが魅力的でないためプレゼンテーションが弱い。

#### ■加藤 / 「段々デッキで過ごす夏の家」

> 敷地全体を使っているのは良いが、スケール音痴。パースが正確ではない。岩が景観を隠している部分がある。室内空間が全く魅力的ではないが、デッキのためのディフェンスとしてはあっても良い。

#### ■上村 / 「4つの自然を感じる 段々の家」

> 岩を巻き込み、住宅に自然環境を取り込んでいるのは良いが、現実的にはガラスをどう設置するのか疑問。スケール音痴。シンプルに解くこと。加藤案のような広がる空間が少ない。

#### ■田口 / 「海に続くながいデッキで・・・」

#### ■細金 / 「海とつながる岩デッキ」

> 建築の建っている位置が悪い。周辺環境を読み取り、適した位置をよく考えて設計すること。

#### ■増井 / 「海にひたる」

> B4 では一番良く、色の塗り方など練習もしてきている。だが寸法がおかしい。資料集成などの本を読み、寸法を覚えること。

#### ■熊谷 / 「“食べる”が近い家」

> 一見良く出来ているが寸法がめちゃくちゃである。資料集成などの本を読み、寸法を覚えること。時間切れ。パース配分を考えること。

#### ■増田 / 「風景の断片」

> 東西にビスタがあるにも関わらず、なぜ南北に部屋を区切るのか。案の魅力を理解すること。敷地の形を考えたいうえでプランの区切り方を考えること。

#### ■池田 / 「風景を切り取る家」

> 風景を切り取るのは良いが、海と分断されてしまっている。自然環境を考える。

#### ■柴 / 「Roof」

> 課題の要点が押さえられていない。自然環境を意識すること。

#### ■古水 / 「夏の基地」

> 課題をシンプルに解こうとすること。閉鎖的すぎるので積極的に海と関わっていくこと。

#### ■矢板 / 「海を眺める家」

> 時間がないので早めに案を決めること。パース配分を考えること。積極的に海と関わっていくこと。

#### ■内田 / 「パノラマの家」

> 敷地に対して建物をめいっぱい建てすぎである。周辺環境をよく読み取り設計すること。

#### ■金子 / 「デッキのある家」

> 敷地に対して建物をめいっぱい建てすぎである。周辺環境をよく読み取り設計すること。

■川福 / 「透かして暮らす」

- > 敷地全体を生かしていない。パースが海に対して魅力的ではない。周辺環境を考えたパースを描くこと。

■倉地 / 「風のとおり道」

- > プランが複雑でやりすぎである。シンプルに解き、海とのつながりを考えること。

■増澤 / 「イワノナカ」

- > 奇抜なプランではなくシンプルに設計すること。スケールを考えて設計すること。

■本間 / 「眺める家」

- > 岩を巻き込み、住宅に自然環境を取り込んでいるのは良い。しかし、傾斜があり、屋根には人が登れない。魅力的なパース・人間を描く。

□総評

---

- ・ 1回目なのでB4は一応完成しているので良い。
- ・ 全体的に海と積極的に関わっていくこと。
- ・ 即日設計はアイデア合戦ではない、シンプルに解くこと。
- ・ 漫然と雑誌を見るのではなく設計者の意図を考える。理屈がわかっていると再現できない。
- ・ 必ずやり直すこと。やり直しならばアイデアを30分以上考える必要はない。
- ・ レイアウトは最初に決める。
- ・ ペンははっきり見えるものを使い、色は3色くらいにおさえる。
- ・ 自分のスタイルを確立する。
- ・ タイトルは自分の案を端的に述べる。

□修士テーマ発表

---

■大塚 / 「陰から考える都市デザイン」

- ・ 日影規制によって影は制限されているが都市空間において陰は考慮されていないのではないか。陰をデザインすることで、陰から都市を分析し、その土地にあった都市構造を見つけサステイナブルなアーバン建築を提案できるのではないのか。
- > 卒業設計と何が違うのか。陰も影も日影規制の対象である。建築は不透明だから陰を見ることができない。サステイナブルなアーバン建築とは何か。なぜ建築が都市構造を保つことができるといえるのか。もう一度よく考えてくること。

■佐長 / 「街を横断する建築-都市のイメージの記述を通して-」

- ・ 渋谷や秋葉原は断片的認識によって作られている。縮小する都市における建築のあり方として、都市のイメージの記述を行い、都市における建築のこれからを設計していきたい。
- > 「これから」を設計するのは当たり前である。何に疑問があり何をやりたいのかが聞きたい。渋谷が渋谷であることに意味はあるのか。中身があまりにない。今日見た限りでは論文に近いと思う。論文を知ること。

■上村 / 「Airy 感を用いた建築（都市）再生」「生け花の作法を用いた日本的な建築（都市）再生」

- ・ 日本の伝統芸術である生け花から日本の精神性を配慮した建築再生を提案したい。削るという手法を取ることによって、生花に見られるような無駄をそぎ落としていく日本人の精神性に配慮した建築が可能なのではないか。
- ・ 空気という素材を用いて 既存建築（都市）がもつポテンシャルを最大限に生かしたい。
- > 3人の中では一番良い。airy でどうやって都市を再生するのか。既存の建築を削っていくことが設計といえるのか。Airy の延長線上に生花があればなお良い。「バランスの良い建築を作った」で終わらないようにすること。
- 都市再生にもクリエイティビティーはあるが、相当の量の建築を調べなければリノベーションは厳しい。今すぐにも対象を決めなければならない。リノベーションをよく知ること。

□総評

---

- ・ 大事なことは絞ること。1~2枚の絵でいいので具体的にこれからやるのが聞きたい。
- ・ あと9ヶ月で何をどのくらいやれるか。スケジュールをよく確認すること。
- ・ とくに論文は下調べをし、春の段階である程度やらなければ修士論文にならない。
- ・ 自分の目指しているもの、可能性、問題点がなければ修士設計にはできない。

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年4月28日 15:00~(予定) 山田記念室
- ・ デザインリサーチ発表

## 吉松研究室 第3回議事録

日時 : 2011年4月21日 木曜日 15:30~20:30  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 田口 細金 曾根田 (記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

### ゼミ内容

- B4 デザインリサーチ発表  
ゼミ旅行について
- M1 敬語について

### デザインリサーチ発表

#### ■倉地 / 「多重する階段による想像の連鎖」

- ・ 生田にある階段の連鎖は風景が断片的に遮られ、上る以前に想像していたものとは異なる風景が現れる。階段を移動することで風景が見え隠れすることに魅力を感じた。
- > ある場面とある場面の間にある認識的つながりをシークエンスといい、シークエンスと倉地の興味が関係あるのではないだろうか。シークエンスを自分なりに調べてくること。

#### ■矢板 / 「街路の広がり」

- ・ 地下街は歩かなければその全体の大きさを知ることができない。地上と切り離されている地下でも、地上のように天候や四季が感じられたほうがよいのではないか。
- > なぜ地下では方向感覚を失うのかという疑問にいくのはいい。なぜ地上とつながっていなければならないのか。問題意識がわからない。似たような場所だけでなく違う地下街をサーベイする。

#### ■池田 / 「雨を感じる -雨と日本-」

- ・ 日本では四季によって雨が呼び変えられるが、江戸中期には忌み嫌われていた。しかし浮世絵では人気の絵柄であったことなどから、日本人は雨に好き嫌いを超えた特別な感情を抱いているのではないか。
- > 慣用句などの歴史、呼び名の変化は面白い。雨の呼び名はいつから存在するのか起源を調べてみる。雨に興味があるのなら日本語が生きていた頃の本（特に谷崎潤一郎など）を読むといい。雨を建築につなげるようにしていくこと。

#### ■川福 / 「あじのある街並み」

- ・ 街には経年変化によって起こる「古色」が必要ではないだろうか。その地域に根ざした素材を使うことで歴史が感じられる街になるのではないか。
- > なんで変化・あじがなくてはならないのか。砂が採れば RC 造が望ましいのか。歴史のある街以外にはあじは存在しないのか。建築はシミュレーションなので自分への問いかけを繰り返しながら前に進むこと。

#### ■古水 / 「視覚情報と街」

- ・ 情報を看板であると仮定して吉祥寺をサーベイしたが、茶畑などの看板のない風景が情報のない風景とは思えないため看板と仮定するのは間違いだった。
- > これではただのマッチポンプ。情報はあまりに漠然とした言葉なので一概に定義はできない。問題意識は如何に絞るかである。逆説からでも事例からでもいいが、内省的な話を何度繰り返しても仕方がない。

#### ■本間 / 「ゆるい存在」

- ・ ゆるいの反語をきびしいと仮定し、自分の思うゆるいものとゆるくないものを挙げていった結果、形が元のものよりも崩れたもののほうがゆるさを感じた。
- > 何が何に対してゆるいのか。ゆるいは評価軸のため基準を決めること。ゆるさの度合いが反映された表にしてみる。ゆるくない規則を作った上でそこから意表をつくゆるさをつくること。今のやり方では前に進まない。

#### ■柴 / 「切り取られた街」

- ・ 建物に囲まれ空が切り取られたようになったことで路地が私有地化し生活空間となっている。クローチアにある生活が滲み出した路地にも同様の魅力を感じた。
- > わからない。ヨーロッパと日本の比較でもないし、何が言いたかったのか。

■熊谷 / 「居場所とは」

- ・ 閉じこもるのではなく人とつながっていることで、程よい緊張感と安心感が得られる。階段の真ん中のように囲まれた場所に魅力を感じることから「囲う」「囲む」などからも考えていきたい。
- > 先週より前に進んでいる。児童心理に近いが、心理から攻めるよりも「囲う」のほうが面白い概念だと思う。建築は囲うものであり遮るものであるため、どのように囲うかが重要となってくる。ある程度基準を絞ってからサーベイにいくとよい。

■内田 / 「素材による印象」

- ・ 銀座のファサードから素材の持つ印象を比較、検証し、素材の特性を得た。また、隣接する建物の解体によって現れたダクトや汚れに生々しさと自分の知らない過去を想像することができた。
- > 素材によって様々な表情は普通の話。アルミでないくらい重く感じたなど、逆の印象を受けたならわかるが、雑誌を引用した感想の発表などいない。他人の受け売りはいらない。

■金子 / 「曲線的動き」

- ・ 人は直線的には動けないため、人に合う建築には曲線が必要なのではないかと考える。曲線を持つ先を見えなくする特性に魅力を感じたが、曲線の建築はごく僅かである。しかし道路には曲線が多く見られる。
- > 道は全部曲線であるが、なぜ建築には多用されないと思うか。六本木ヒルズは都市計画から建築をつくっているから曲線が多い。なぜ歴史的にも曲線建築が少ないのかを考える。

■増井 / 「隠される」

- ・ 銀座の路地では輪郭が隠れることで袋小路が、先のある丁字路のように見えた。形の手がかりを隠すことで壁か屋根かが曖昧な坂など、予想することが困難な新しい空間ができるのではないか。
- > これは建築学生らしくてよい。まだ仮説の段階なので、銀座のような事例を何個も探しサンプルを増やすこと。隠すとどんないいことが起こるのか考えること。

■増田 / 「素-触れたい建築-」

- ・ 建築は化粧をし、嘘をつく。化粧をする前の未完成の建築に魅力を感じた。人の肌に直接触れる家具のように愛着を持てる建築をつくりたい。
- > 家具と建築の違いはなにか。なぜ家具には愛着が持て、建築には持てないのか。素の建築の話は面白い。増改築を繰り返しても魅力を失わない骨太な建築は多くの建築家が目指している。

■増澤 / 「隅」

- ・ 隅は安心感があり、いつも隅を探す習慣がある。隅と認識される角度、領域はどこまでなのか、隅のない空間とはなんなのかを考える。
- > なんで安心感があるのかを考える。考えたこと、内容があまりにない。

□総評

- ・ 一人で考えるのではなく、先輩のデータをよく見て卒制に対する基礎知識を身につけること。
- ・ イメージだけでは前に進まない。進めていく力を培うこと。
- ・ 本に書いてあることは最先端ではない。実際の建築を見に行き、その先を考えること。
- ・ 現実に追い越されてはいけない。そのためにはアンチや疑問が必要。だがそういう意識が弱い。
- ・ あまり「これが作りたい」というものが伝わってこない。

□グループ編成

A 班：上村            本間・池田・増田  
B 班：加藤・細金    川福・内田・古水  
C 班：佐長・田口    増井・倉地・金子  
D 班：大塚・曾根田 矢板・柴・熊谷・増澤

□ゼミ旅行について

- ・ 小海町高原美術館はいかなくてもよい。
- ・ シャトーメルシャンは少し遠いか。けれど悪くない。
- ・ 清里方面はいい建築が多い。とくにキース・ヘリング[北川原温]はおすすめ。ほかにも山梨フルーツミュージアム[長谷川逸子]、清春白樺美術館[谷口吉生]はいまなら藤森さんの空飛ぶ茶室が見られる。
- ・ ドメイヌ・ドゥ・ミクニは建築を保存・修復している一度行ってみたいレストラン。高いので希望者のみか。
- ・ ハラミュージアムアークは1時間半では短いかもしれない。

□敬語について

---

- ・ 丁寧語をきちんと使えるようにすること。
- ・ 丁寧語で言葉遣いを怒られることはそうそうない。わかりやすい言葉で伝えることが大事。
- ・ 敬語・PCメールはこれから必須となるので覚えておくこと。

□次回ゼミ

---

- ・ 2011年4月25日 13:30～17:30 12号館501製図室
- ・ 即日設計の準備をすること

## 吉松研究室 第2回議事録

---

日時 : 2011年04月14日 木曜日 15:30~20:30  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 (遅) 佐長  
          M1 加藤 曾根田 田口 細金 (記)  
          B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

---

### ゼミ内容

- 今年度の研究室の体制について
  - Marca Scarf Design Award 2011
  - B4 ゼミ旅行について
  - デザインリサーチ発表
- 

### 今年度の研究室の体制について

---

- 全体  
先生がディレクションするのではなく学生の自主性によって研究室の活動は変わる。
- 進学組  
一週間たったが勉強しているように見えない。このままでは良い結果は期待できない。  
海外に留学した先輩は自力で自分の道を切り開いている。
- 就職組  
相手の気持ちになって考えることが重要。  
手に職をつける。

### Marca Scarf Design Award 2011

---

吉松研OB遠藤さんのご実家が主催されているスカーフのコンペ。  
写真を貼るだけではデザインにならない。  
スカーフは何度も違った色を刷る(20色まで)。Photoshopの色分解を使ってデザインしてみる。  
幾何学模様の場合色は少なくても良い。  
応募期間は4/29~5/20 ゼミにてレクチャーも可能。どうやって進めるかは要相談。

### ゼミ旅行について

---

長野案で進め、今週中にはきめる。  
ハラミュージアムアーク新館の裏方を見れると良い。柳澤さんの塩尻も可能性あり。  
日付は5/20~21に確定。学外教育願いは1ヶ月前には提出しなければならない。

### デザインリサーチ発表

---

#### ■倉地 / 「タイトルなし」

- ・ ガードレール、違法駐輪の列、混み合った駅ホームなど一般的には邪魔なものに自然と適応する人の姿や物の認識に興味を覚えた。
- > 「とか」を使わないよう日本語に気をつける。全員がわかるよう説明をしなければ伝わらない。問題意識をしっかりと持たなければならない。

#### ■矢板 / 「奥行きを感じる街路」

- ・ 川崎、東銀座の地下街でのどこまで街路が続くのか分からない「奥行きを感じる」体験に興味を持った。また地上の町と関係なく張り巡らされた地下街のギャップにも魅力を感じた。
- > ビルの中も外から見えない、地下でなくてもいいのでは。地上、建築内部、地下での奥行きを比較する。

#### ■池田 / 「雨を感じる」

- ・ 雨の雰囲気が好きで雨を遮断して暮らす現代に疑問を持った。雨は姿が見えたり音が聞こえたりすることから、風などを感じさせてくれる媒体であり、またにおいによっても雨を感じられる。
- > 雨のおいとはなにか。建築の中にいるときや傘をさすなど濡れないと雨を感じていないのか。今後は建築との関係性も考えていく。

#### ■川福 / 「瓦屋根の広がる風景」

- ・ 瓦屋根が重なりあっている集落を見下ろした風景に魅力を感じた。光のあたり方や瓦屋根のムラやまだらが重なることで美しさを感じる。
- > 瓦と屋根どちらに興味があるのか明確にする。ムラがあるからいいのか、ムラとまだらの違いは何なのかも考える。



■古水 / 「タイトルなし」

- ・ 白黒、セピア、色あせた加工がされている写真は、実際と感じ方が異なることに興味を覚えた。本当の色ではないので想像が広がり、可能性が増えるのではないかな。
- > 情報が減ることで解像度の高いものやフルカラーより想像の幅が増え、可能性が広がる。

■本間 / 「ゆるい\*ゆるい空間」

- ・ 決まりがなく自由な印象を受ける「ゆるい」に興味を覚えた。多摩美の図書館は家具に始まり内部空間が普通の図書館よりゆるく感じる。吉松研究室ではゆるい人=SIK ゆるくない人=MSI であると考えた。
- > 曖昧とゆるい是一緒なのか？ゆるいの反対は何なのか考え、評価基準を明確にする。

■柴 / 「interestxArchitecture」

- ・ 魔女の宅急便に登場する街並みはなぜ統一感を感じるのか、先が見えない路地、建築とケーキの関係性に興味を覚えた。建築の模様によって街並みに統一感がでている。
- > 結局何に興味を持っているのか？具体的な興味がわからない。

■熊谷 / 「居場所」

- ・ 階段のおどり場の心地よさは光の落ち方が重要であると考えた。境界、機能があるわけではないが人が集まる空間が生まれ、床をつたった反射光の場合は奥へと導く空間をつくっている。
- > 光の真下、狭さが居場所と関係しているのでは。居場所の定義を明確にする。

■内田 / 「都市のアイデンティティー」

- ・ 東京のもつ独自性、個性、代謝が速いのに東京らしさを保っていることに興味をもった。ケヴィン・リンチより、過去からある都市の記憶、情報量、パス、landmark が関係していると考え今後は自分でその他の要素を見つけたい。
- > キャラクターとアイデンティティー是一緒なのか。人の受け売りではなく自分で問題意識を持って取り組まなければならない。

■金子 / 「タイトルなし」

- ・ 直線的ではない人の動きにあった曲線、うねった空間に興味を覚えた。鬼石多目的ホールでは人の動きにあった空間であると考えた。現代の都市空間には曲線的な建築が足りていない。
- > 世の中はなぜ曲線の建築が少ないのか。興味でとまっている。

■増井 / 「うまいこと すごいこと」

- ・ 「うまい」の認識は共通するが「すごい」の認識は人によって異なることに興味を覚えた。うまいは高い技術、すごいはシンプル、味わい深さ、佇まいの意味があると考え実在の建築にあてはめた。
- > うまいとすごいは全く違う言葉。自分の意見、言葉で発表すること。実際の空間を感じないと理解できない。

■増田 / 「タイトルなし」

- ・ 露地、山道など自然のある風景に興味を覚えた。不均質であり時間によって変化し、人がコントロールできない点が自然の魅力である。
- > 露地は人間が草木を植えているのだから自然ではないのでは。

■増澤 / 「自然」

- ・ 人の手が加わらない自然に興味を覚えた。木漏れ日は暖かく、おだやかであり、緑の色や光から癒しを感じた。
- > 緑を見たらなぜ癒されるかなどを考えることが大事。しかし建築とどう関係があるのかが重要。

□総評

- ・ 前期に自分なりの問題意識が出ている人は卒業設計でも良い結果が出ることが多い。
- ・ 自分の興味を見つけて迷子になってみる。何が分からないか分かることが大事。
- ・ 4研に過去の先輩の前期、卒業設計梗概があるので参考にすること。
- ・ 自分の感覚を揺さぶるためにサーベイにいくとよい。

□予定

- ・ 6月頭 ゼミ内中間発表 7月20日頃 学科研究報告書提出

# 吉松研究室 第1回議事録

日時 : 2011年4月4日 月曜日 15:30~20:30  
場所 : 山田記念室  
出席 : M2 大塚 上村 佐長  
: M1 加藤 曾根田 細金 田口(記)  
: B4 池田 内田 金子 川福 熊谷 倉地 柴 古水 本間 増井 増田 増澤 矢板  
欠席 : なし

## ゼミ内容

- 今年度の研究室の体制について
- B4 ゼミ旅行
- M1 象の鼻報告書

## □進路について

### ■進学組

- 池田: 都市大東京(手塚研)
- 矢板: 日大(佐藤研)  
首都大(小泉研)
- 本間: 他大大学院
- 内田: 東海大学(吉松研)  
110 単位 都心の大学院

### ■就職組

- 増田: 他大大学院  
102 単位 アトリエ
- 増井: 他大大学院  
アトリエ
- 金子: 他大学院  
110 単位
- 川福: 空間インテリア
- 古水: グラフィック  
デザイン学校
- 熊谷: ハウスメーカー
- 柴: ハウスメーカー  
アトリエ
- 倉地: 組織設計
- 増澤: 組織設計  
104 単位
- 大塚: 組織設計事務所
- 上村: リノベーション
- 佐長: 組織設計

### ■進学組

- > 院は執行猶予ではない。学校は社会より甘い。院は結婚と一緒に一生ついて回る。就職と同じように考え、悩むべきである。進学は後1,2ヶ月で決めなければならない。大学は名前や人で決めるのではなく、環境が大事。まずは興味のある研究室に行ってみること。

### ■就職組

- > 昔とは違い、大手の会社でもクビや潰れる可能性がある。就職がうまくいかなかったときのことは考えなければいけない。10年後を見据えて考える。できないのなら5年後でもいい。来年決める必要はない。結論を急がずにゆっくり学んで慎重に進路を見極めるべき。設計をやりたいのなら設計でお金を取っている会社を選ぶ。説明会だけではわからない。アルバイトなどをして実際に見た方がいい。

## □ゼミ旅行について

- 伊勢案、長野案を再考すること。
- 今週中には決めること。
- 卒業設計に参考になる建築を選ぶと良い。

## □ゼミについて

- 毎週月、木曜日の予定、水曜日は予備日
- 木曜日 ゼミ 4限~

## □決定事項

- 会計: M1 田口 B4 柴
- 鍵管理・書類: M1 加藤 B4 池田、熊谷
- ネットワーク: M1 細金・加藤 B4 内田、金子
- 物品管理: M1 曾根田

## □連絡事項

- 事務室にあるコピーカードで、事務室と山田記念室のコピー機を使用できる(ゼミで使用する資料のみ)。
- 基本的に第2研究室は自由に使用可能。模型材料は、B4は使用禁止。私物を置かないこと。但し、共有物は良い。
- できるだけ研究室を使うようにすること。
- 院生もポर्टフォリオで使用する紙などは自分で購入すること。
- 私物は自己管理し、研究室を使用しない場合は鍵を閉めること。

## □次回ゼミ

- 2011年4月14日 15:30~20:30 山田記念室